

独立行政法人文化財研究所の平成18年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

評価結果の総括

全方位的に最大限の力を発揮し取り組み、大きな成果を上げていると評価される。特に、最も注目を集めることとなった高松塚古墳の壁画等の緊急課題への対応は、平成18年度は適切に実施され、国民へ報告されたことは評価できる。その成果の源は、東京文化財研究所、奈良文化財研究所の統合により、両者の緊密な関係による相乗効果が生じたこと、ならびに外部の企業、スタッフの協力を得られた成果と判断される。

また、引き続き高度な調査研究を行うとともに、その成果を活かし、我が国の文化財に関する調査研究のナショナルセンターとして地方公共団体・博物館・美術館等が行う文化財保護活動の質的向上の支援、文化財の保存・修復に関する国際協力を積極的に行っていると評価される。

<参考>

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 A

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 A

財務・人事 A

評価結果を通じて得られた法人の今後の課題

本年度の業務の遂行は、従前に引き続き、全体にわたってすばらしい成果を上げており高く評価される。

その中であって、文化財の保存についての最大の課題は、自然界（屋外や土中にある環境）における遺跡、遺物の保存をどのように行うかということであり、今までの調査研究の蓄積の結果、大きな成果を上げているが、難問も多い。平成19年度からの国立博物館との統合により、今までの自然界における文化財の保存上の成果を踏まえた新たな展開を組織的に行う時期に来ていると思われる。

評価結果を踏まえて今後の法人が進むべき方向性

文化財研究所は、我が国における保存科学・保存修復を始め、自然界における不動産の文化財に携わる研究者を最も充実して擁し、豊富な実績を有していること、また、国立博物館は動産である有形文化財に携わる研究者をもっとも充実して擁し、特に展示・公開に関しては比類なき実績を有している。

今後は、両法人が統合した国立文化財機構として、自然界における文化財の保存重視から公開等にも力を注ぎ、研究者が一体となって、より現実に対応した保存・活用等に関する調査研究を促進すべきである。

特記事項

平成19年度からの国立博物館との統合により、さらに、組織の責任の下に、関係部署間の一層の有機的な連携を図り、目的の達成に向かって欲しい。

文部科学省独立行政法人評価委員会 文化分科会

国立文化財機構部会委員名簿

(五十音順)

(委員)

河野 栄子 株式会社リクルート特別顧問

竹内 順一 東京芸術大学美術学部芸術学科教授

(臨時委員)

池上 徹彦 宇宙開発委員会委員

吉川 周平 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長

嶋田 実名子 花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門CSR推進部長

武田 佐知子 大阪外国語大学外国語学部国際文化学科教授

増澤 文武 財団法人元興寺文化財研究所名誉研究員

宮島 博和 公認会計士宮島博和事務所

: 部会長

独立行政法人文化財研究所の平成18年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化				
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A					(小項目名)公開施設の運用	A				
(中項目名)文化財に関する調査及び研究の推進	A					(中項目名)地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	A				
(小項目名)調査研究の目的、内容の適切性	S					(小項目名)地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築	A				
(小項目名)調査研究の実施状況	S					(小項目名)中核的文化財担当者の研修・若手研究者の育成	A				
(小項目名)調査研究の成果の状況	A					(大項目名)業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A				
(中項目名)文化財の保存・修復に関する国際協力の推進	A					(小項目名)経費の合理化、行政コストの効率化	A				
(小項目名)国際協力に関する研究基盤の整備	A					(小項目名)人件費の削減、給与体系の見直し	A				
(小項目名)保存・修復に関する技術移転の推進	A					(小項目名)法人の自己点検評価のあり方についての検討	A				
(中項目名)調査研究成果の積極的な発信による社会への還元	A					(大項目名)財務・人事	A				
(小項目名)情報基盤の整備充実	A					(小項目名)予算(人件費の見積もりを含む)・収支計画及び資金計画	A				
(小項目名)調査研究成果の公開・提供	A					(小項目名)人事計画に関する計画	A				

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較 (過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
収入						支出					
運営費交付金収益	3,091	2,982	3,111	2,946	2,877	業務費	2,995	2,796	2,843	2,992	2,923
業務収益	23	20	16	21	46	一般管理費	790	759	722	692	730
受託収入	218	188	257	475	627	財務費用	0	0	0	0	1
財産賃貸収益	3	2	2	2	2	雑損	-	0	0	0	1
寄付金収益	11	8	8	18	8						
資産見返負債戻入	423	273	208	164	127						
財務収益	0	0	0	0	0						
雑益	39	23	27	30	25						
計	3,808	3,496	3,629	3,656	3,712	計	3,785	3,555	3,565	3,684	3,655

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
費用						収益					
経常費用						経常収益					
業務費						運営費交付金収益	3,091	2,982	3,111	2,946	2,877
人件費	1,556	1,458	1,435	1,413	1,345	業務収益	23	20	16	21	46
調査研究事業費	337	369	392	402	407	国からの受託業務収入	143	112	166	379	534
展示出版事業費	113	98	87	94	98	その他の受託業務収入	75	77	90	96	93
情報公開事業費	134	155	160	142	139	財産賃貸収益	3	2	2	2	2
研修事業費	24	19	22	18	17	寄付金収入	11	8	8	18	8
国際研究協力事業費	195	227	286	280	229	資産見返運営費交付金戻入	21	43	53	66	82
平城宮跡等公開支援事業費	38	42	41	49	-	資産見返寄付金戻入	8	13	20	24	24
附帯業務費	3	2	2	3	6	資産見返物品受贈額戻入	394	217	135	74	21
受託業務費	205	185	245	459	572	受取利息	0	0	0	0	0
減価償却費	390	240	173	132	110	物品受贈益	13	-	-	-	-
一般管理費						雑収入	26	22	27	30	25
人件費	280	296	280	291	285	臨時利益	33	-	2	-	-
管理経費	477	428	406	363	426						
減価償却費	33	35	36	38	19						
財務費用	0	0	0	0	1						
雑損	-	0	0	0	1						
臨時損失	35	1	-	2	7						
計	3,820	3,555	3,565	3,686	3,662	計	3,841	3,496	3,630	3,656	3,712
						純利益	21	-59	65	-30	50
						目的積立金取崩額	31	28	21	13	-
						総利益	52	-31	86	-17	50

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出						業務活動による収入					
人件費支出	1,793	1,839	1,637	1,734	1,651	運営費交付金収入	3,254	3,086	3,216	3,046	2,985
業務費支出	960	1,259	1,195	1,370	1,558	寄付金収入	10	11	17	7	8
一般管理費支出	396	442	421	297	451	入場料収入	22	22	16	20	46
科学研究費等支出	235	219	214	190	160	財産利用収入	3	2	2	2	2
消費税等の支払額	-	7	2	12	9	受託収入	277	189	133	233	634
財務費用	0	0	0	0	1	科学研究費等収入	235	219	214	191	161
国庫納付金の支払額	-	-	-	-	117	財務収入	0	0	0	0	0
投資活動による支出						雑益	25	22	27	30	19
有形固定資産の取得による支出	213	164	116	80	373	その他の収入	-	-	-	-	-
無形固定資産の取得による支出	-	-	2	2	1	投資活動による収入					
預託金の支払による支出	0	0	-	1	-	有形固定資産の売却による収入	-	-	3	-	-
財務活動による支出						財務活動による収入					
リース債務の返済による支出	0	1	1	4	5	消費税等の還付額	565	-	-	-	-
翌年度への繰越金	1,362	984	1,024	866	394	前年度よりの繰越金	574	1,362	984	1,024	866
計	3,597	3,931	3,588	3,690	4,326	計	4,391	3,551	3,628	3,529	3,855

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
資産						負債					
流動資産	1,409	1,043	1,205	1,298	823	流動負債	628	381	495	658	763
固定資産	19,322	18,816	18,322	17,914	17,983	固定負債	874	726	644	608	582
						負債合計	1,502	1,107	1,139	1,266	1,345
						資本					
						資本金	17,167	17,167	17,167	17,167	17,167
						資本剰余金	1,859	1,499	1,070	658	240
						利益剰余金	203	86	151	121	54
						(うち当期末処分利益)	(53)	(-31)	(86)	(0)	(50)
						資本合計	19,229	18,752	18,388	17,946	17,461
資産合計	20,731	19,859	19,527	19,212	18,806	負債資本合計	20,731	19,859	19,527	19,212	18,806

【参考資料3】利益（又は損失）の処分についての経年比較（過去5年分を記載）

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
当期末処分利益	53	-31	86	-17	50
当期総利益	53	-31	86	-17	50
前期繰越欠損金					
利益処分別	53	-31	86	-17	50
積立金	36	-31	86	-17	50
独立行政法人通則法第44条第3項により 主務大臣の承認を受けた額					
調査研究事業積立金	17	-	-	-	-
展示出版事業積立金	-	-	-	-	-
情報公開事業積立金	-	-	-	-	-

【参考資料4】人員の増減の経年比較（過去5年分を記載）

職種	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
定年制研究職員	90	85	90	90	90
任期制研究系職員	-	-	-	-	-
定年制事務職員	36	36	36	36	36
任期制事務職員	-	-	-	-	-

職種は法人の特性によって適宜変更すること

- S 特に優れた実績を上げている。（客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評価を付す。）
 A :中期計画通り または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。
 B :中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。
 C :中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%未満）
 F 評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

評価
A
 すべての中項目でA評価を受けており、全体としてバランスよく業務が行われ、中期目標に向かって順調に実績を上げている

中項目の評価	評価
1. 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進	A
2. 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進	A
3. 調査研究成果の積極的な発信による社会への還元	A
4. 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	A

【中項目評価】

1. 文化財に関する調査及び研究の推進

評価
A
 中期計画を上回って履行し、中期目標を上回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

法律改正に伴う新しい分野である「文化的景観」「民俗技術」への対応は、国における指定や保存に向けての指針になるものとして大きな成果が出ている。また、保存科学の分野においても、年輪年代、新しい分野の精密画像、非接触分析法、IPM（総合的有害生物管理）なども応用段階に入り、高く評価される。地味ではあるが文化財の動かしがたい空間、すなわち莫高窟を始めとした海外の屋外遺跡や、美術・飛鳥藤原・平城宮の調査、山車などの収蔵施設における環境調査が継続され成果を上げつつある。保存処理についても新しい技術が試みられ、特に高松塚・キトラ古墳の壁画については、的確な機器等が開発され、併せて万全を期した予備実験がなされ今までにない環境（終始マスクミを通した一般の目の監視のもと）で確実な手法により成果を上げている。

今後は、文化財の保存について長年の課題である自然界における遺跡等の保存処理に関する調査研究の成果を期待したい。

中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己点検評価	評価委員会による評価
		S	A	B	C	F		
<p>(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進</p> <p>文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。</p> <p>文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。</p> <p>我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。</p> <p>日本を含む東アジア地域</p>	<p>1. 調査研究の目的、内容の適切性</p> <p>中期計画に示された課題や文化財保護政策の二一ズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p>(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進</p> <p>・目的</p> <p>文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与することを目的とする。</p> <p>・テーマ</p> <p>文化的景観に関する調査研究 民俗技術に関する調査・資料収集 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 東アジアの美術に関する資料学的研究 近現代美術に関する総合的研究 美術の技法・材料に関する広範的研究 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 平城宮跡東院地区(第401次)の発掘調査 平城宮跡東方官衙地区の調査 西大寺日境内(第404,410,415次)の発掘調査 興福寺大乗院(第407次)の発掘調査 興福寺日境内果園階地地の発掘調査 藤原京跡朝堂院東第四堂発掘調査 本薬師寺跡住宅遺跡に伴う発掘調査 来迎寺塀新築に伴う確認調査 石神遺跡(第19次)発掘調査 甘樫江東麓遺跡発掘調査 平城京跡出土遺物の調査研究 飛鳥・藤原京跡出土遺物の調査研究 古代瓦に関する研究集会の開催 アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 庭園に関する調査研究 飛鳥時代の歴史に関する調査研究 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究 第一次大極楽寺復原整備研究</p> <p>・自己点検評価</p> <p>平成16年の文化財保護法の一部改正に伴い、新たに保護対象となった「文化的景観」「民俗技術」に関する調査研究を研究テーマとして設定したことは、今後の指定をはじめとする国の文化財政策に資するものと判断する。</p>	<p>評定S</p> <p>コメント</p> <p>全体的に、国の文化財保護政策に即した調査・研究テーマが選択され、実施されているものと思われる。</p> <p>(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進</p> <p>新たに文化財保護法の対象となった文化的景観に関する調査研究は、文化庁の調査研究の趣旨に則り、全国の一次調査対象物件のデータ整理の中から、18年度の文化的景観保存活用調査事業として、最も注目される四万十川流域の現地調査がなされており、今後の景観保存の指針になるものとしては、最も良いテーマと考える。</p> <p>新たに文化財保護法の対象となった民俗技術についても、無形民俗文化財の研究テーマとされ、緒についたばかりの課題が第一回無形民俗文化財研究協議会で取り上げられたことは、テーマ設定として適切であり、今後に向けての第1歩として評価される。</p> <p>無形民俗文化財の保存は、全国的に少子高齢化によってとても難しい問題だと</p>				

<p>における美術の価値形成の多様性の解明</p> <p>我が国における近現代美術の歴史の解明</p> <p>美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明</p> <p>古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究</p> <p>歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開</p> <p>我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。</p> <p>我が国の風俗習慣、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団</p>			<p>また、多岐にわたる文化財の各分野について、継続的な調査研究を要するテーマも含め文化財保護政策上のニーズに沿った研究目的・テーマを設定したと判断する。</p> <p>(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進</p> <p>・目的 文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与することを目的とする。</p> <p>・テーマ 高解像度デジタル画像の応用に関する調査研究 文化財の非破壊調査法の研究 遺跡データベースの作成と公開 古代官衙・集落に関する研究集会の開催 遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究 年輪年代学研究 動物遺存体による環境考古学研究</p> <p>・自己点検評価 広範な文化財研究を支援するための手法の開発、文化財非破壊調査法としての材質調査のための新規手法、遺跡調査・研究の質的向上や発掘調査の効率化に資するための調査手法、年輪年代学研究の効率的・効果的な応用手法による考古学、建築史学、美術史、歴史学研究への寄与など、現在求められている文化財研究に係る新たな調査手法の研究開発として適切な研究目的・テーマを設定したと判断する。</p>	<p>思われるので、保存・活用に関する調査研究を進めてほしい。</p> <p>遺跡の保存・整備については長い間、多くの保存形態が検討され、また多くの保存処理の考え方が示され実施されてきたが、今回、従来の研究テーマに加えて、教育面から各現場における事例を取り上げて研修集会を開催する一方、整備例の資料収集とそのデータ化を開始したことは、整備・保存に加え、活用面が求められている今日、時宜を得たものと評価される。</p> <p>(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進</p> <p>遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究については、文化財研究所が先頭を切って推進してきた分野であるだけに今回研究が再開されたことは評価でき、今後に期待したい。</p> <p>長年にわたり、調査研究がなされてきた年輪年代学の応用例として、¹⁴C年代測定との関係と年代測定法の精度および信頼性への寄与、並びに科学的分野の適応が比較的速い画像への適用は、今までの成果を踏まえて最も時宜を得たものと評価される。</p>
---	--	--	---	---

<p>体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有を図り、「無形民俗文化財の映像記録作成ガイドライン（仮称）」等の指針を作成し公表する。</p> <p>平城京、藤原京、飛鳥浄御原を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷経緯、庭園等の変遷経緯、飛鳥浄御原の歴史等の解明に寄与する。</p> <p>遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等</p>			<p>(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進</p> <p>・目的 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与することを目的とする。</p> <p>・テーマ 文化財の生物劣化対策の研究 文化財の保存環境の研究 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 文化財の防災計画に関する調査研究 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 伝統的な修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 国際研修紙の保存と修復 在外日本古美術品保存修復協力事業 近代の文化遺産の保存修復に関する研究</p> <p>・自己点検評価 文化財の生物劣化や文化財を取りまく保存環境、屋外文化財や近代文化遺産の保存修復手法、考古資料の材質・構造の調査法など、文化財を適切に保存していくための課題に対して、保存科学に関する先端的な調査・研究テーマを設定した。 また、伝統的な修復材料・技法についての調査研究や文化財の保存修復に関する国際的な支援や人材育成など、ニーズに沿った研究目的・テーマを設定したと判断する。</p>	<p>(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進</p> <p>博物館内などの環境は、蓄積された環境条件に加え、I P M（総合的有害生物管理）の導入に移行し一歩階ステップアップしたが、今回、山車など従来の保管場所や、自然環境下にある周辺環境の保存環境調査は、全国的に存在する文化財保存環境の在り方を考える基礎となり、屋外展示を含む対策への第一歩となりうるテーマである。</p> <p>近代の文化遺産の保存修復の調査において、海外での調査及び協議に加え、合成樹脂の経年変化、ならびに防錆対策のための各地での暴露試験の実施がなされていることは評価される。一方で合成樹脂については、従来の文化財への適用例の経年変化の調査がされており、直接的ではないかもしれないが、両文化財を視野に入れた評価と長期観察に期待したい。</p> <p>防災に関しては、特に地震の多発状態を鑑みると、最も大事なテーマであり、GIS（地理情報システム）を用いた文化財防災情報システムの開発も興味では</p>
---	--	--	---	---

<p>により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。</p> <p>(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進</p> <p>文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。</p> <p>光に対する物性を利用した高精彩のデジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現することを旨とする。</p>			<p>(4)我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施することを目的とする。</p> <p>・テーマ</p> <p>文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力外部機関の要請に基づく文化財の保存修復に関する実践的研究</p> <p>・自己点検評価</p> <p>我が国の文化財保護政策上、重要かつ緊急な措置として文化庁より、「キトラ古墳の遺物調査・保存処置、環境調査と壁画の取り外し」及び「高松塚古墳の壁画の環境や修復に関する調査研究、墳丘の発掘調査、ならびに石室解体方針策定のための調査・研究」を受託したことは、ニーズに沿った研究目的・テーマであると判断する。</p> <p>また、地方公共団体からの要請に応じて受託した文化財の保存修復に関する実践的研究についても文化財保護政策のニーズに沿った研究目的・テーマと判断する。</p>	<p>あるが、博物館、美術館はもとより、文化財保持者をも巻き込んだ一層発展的なシステム化に期待したい。そのためには特に本件についてはそれぞれの当事者の関心が前提となると考えられることから、あわせて、東京文化財研究所で行われている文化財の防災計画に関する研究会のような例を各地で実施するなどし、普及種加に努めて欲しい。</p> <p>(4)我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財についての迅速かつ適切な実践的な調査・研究</p> <p>高松塚古墳・キトラ古墳の壁画については、まさにニーズにあった研究目的・テーマであり、今回のその遂行にあたっての取組みも適切で正確であったと思う。今後とも、組織全体で連携を密にして両古墳への保存に取り組んでいただきたい。</p>
---	--	--	--	---

<p>小型可搬型機器の開発及び応用研究を行い、文化財の材質調査をその場でできるようにする。また、有機化合物の物質同定を目的とした新規手法の検討及びその応用研究を行い、金属文化財や顔料など無機化合物に関する元素分析及び構造解析手法の確立等を目指す。</p> <p>遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。</p> <p>木質古文化財の年輪年代測定等を進め、考古学・建築史・美術史の研究に資する。</p> <p>遺跡出土の動植物遺体や古土壌の考古科学的分析により、過去の生業活動の解明と環境復元を行う。</p> <p>(3) 科学技術の活用等によ</p>	<p>2. 調査研究の実施状況</p> <p>それぞれの調査研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p>(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進</p> <p>・実施状況</p> <p>文化的景観に関する調査研究</p> <p>文化的景観の分類・分析・評価など基礎的・理論的な研究と、具体的な地域を対象にした調査研究を実施した。前者では、文化庁の行う「採掘・製造・流通・往来および居住に関する文化的景観の保護に関する調査研究」に係わる業務を企画競争を経て受託し、二次調査対象を選定する作業に協力した。後者では、研究対象地域を高知県内の四万十川流域とし、流域の文化的景観の特徴やその保護策について研究を進めた。</p> <p><受託研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「採掘・製造・流通・往来及び居住に関する文化的景観の保護に関する調査研究」に係る業務 1,800千円 ・四万十市の文化的景観の調査 1,659千円 ・平成18年度榑原町文化的景観保存調査委託業務 1,532千円 <p>民俗文化に関する調査・資料収集 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究</p> <p>島根県出雲市で開催された神楽祭典大会の調査、大元神楽の調査、備中神楽の調査、千葉県館山市・南房総市のミノコドリに関する調査、関東・近畿・東海・北陸・中国・四国、及び九州の各ブロック別民俗芸能大会、地域伝統芸能全国フェスティバル等の公開鑑賞調査、犬山祭の常設展示施設調査を実施した。民俗文化の伝承状況の調査として、七夕馬の製作技術の調査を行った。第1回無形民俗文化財研究協議会を「民俗文化の保護をめぐって」をテーマとして2006年11月22日に開催した。</p> <p>東アジアの美術に関する資料学的研究</p> <p>日本をふくむ東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが密接に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみを解明することを目指す。今年度は報告書として『龍華寺蔵菩薩半跏像?美術研究作品資料?第四冊』を刊行した。このための調査撮影を行い、その他にも資料収集のための予備的調査を行った。また、美術部オープンレクチャーや美術部研究会で研究発表を行い、美術史研究のためのコンテンツとして「宗基資料・年譜」を作成した。</p> <p>近現代美術に関する総合的研究</p> <p>多様化する現代美術の動向の調査研究を含め、日本近代美術の研究資料のあり方、研究の手法の開発、研究成果の公開の仕方を研究し、文化庁行政に寄与することを目的としている。今年度は、既刊の著述集『絵画の将来』(中央公論美術出版、昭和58年)に未収録の著述を集成した『黒田清華著述集』を報告書として刊行することができた。また研究論文集『昭和頃美術展覧会の研究』(仮称)の準備作業に入り、他機関の研究者の参加を仰ぎ、その問題点等を積極的に協議するための研究協議会を開催することができた。</p> <p>美術の技法・材料に関する広範的研究</p> <p>本研究は美術作品が基礎としている材料・技法・制作の歴史等を文獻史料あるいは作品に対しての科学的・光学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱胎漆造、鎌倉時代の善光寺式彫刻像、鎌倉末・南北朝時代の金泥塗、京都国立近代美術館蔵の近代絵画作品</p>	<p>評定S</p> <p>コメント</p> <p>内外の研究動向を踏まえそれぞれのテーマに対応した研究がなされ高い成果が上がっている。特に、奈良文化財研究所は我が国考古学会の指導的な地位にあること、及びその研究水準は国際的に見ても一流の域に達していることを評価したい。</p> <p>(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進</p> <p>多数の調査・研究の中で、民俗文化に関する調査・資料収集や、無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究が行われたことは評価できる。限られた人数だから難しいと思うが、消滅しつつあるものが多いので、調査対象数を増やすことを期待したい。</p> <p>無形文化財に関わる研究は、その研究方法も含めて、今後の成果を期待したい。</p> <p>飛鳥・藤原京、平城京における発掘調査による成果は、遺跡はもとより遺物などの体系化、大陸などとの関係が明らかになり、併せて奈良時代の官衙、興福寺、西大寺など委託事業の成果も含め、明ら</p>
--	---	--------------------------	---	--

<p>る文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進</p> <p>最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製材技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。</p> <p>生物被害を受けやすい木質文化財（社寺等建造物、周家など）の劣化診断や被害防止対策を確立する。</p> <p>環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行い、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し、改善することに資する。</p> <p>屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集</p>			<p>について調査を行った。また、奈良時代史料にあらわれた彩色器楽データをホームページにて公開し、逐次、更新に努めた。</p> <p>古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究</p> <p>興福寺では第89函・第96函～第102函の調査を行った。薬師寺は、第29函(筆筒)と第31函～第45函の調書作成を行い、またデータベースのデータ入力・修正と、企画調整部文化財情報研究室が行ったソフトの改善に協力した。さらに、『黒草紙・新黒双紙(薬師寺所蔵)』を刊行した。東大寺は新修東大寺文書聖教第15函の中村準一寄贈文書を調査した。唐招提寺は、惣倉所在の近代書類を調査している。さらに高山寺の調査を実施し、第309函・310函の調書作成・写真撮影をおこなった。また奈文研所蔵資料は、「関野貞日記」の翻刻作業を進めている。その他、奈良市より調査協力の依頼を受けた大宮家文書調査では、その調査成果の一部を『奈良文化財研究所紀要2007』に掲載した。</p> <p>歴史的建造物の保存・修復・活用の実証的研究</p> <p>建造物調査として高知県中芸地区森林鉄道遺構調査、重要文化財財団法人家住宅保存活用活用調査、国宝三仏寺興院(投入堂)塗装・飾金具調査、出雲大社社外縁部土壌調査を実施し、堀内家住宅調査及び昨年度までにおこなったベトナム・ドゥオンラム村集落調査、鳥取県丘代和風総合調査(編集・執筆分担)は報告書を刊行し、その他の成果は『奈良文化財研究所紀要2007』に論文として掲載した。このほか、「建造物写真乾板目録」「建造物現状変更踏査」を刊行し、古代建築の技術に関する研究では、第1回研究会を開催して成果を発表した。</p> <p><受託研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県中芸地区森林鉄道遺産国指定物件調査 1, 2 4 3千円 ・長野県塩尻市 重要文化財財団法人家住宅保存活用調査 3, 2 8 3千円 <p>無研究文化財の保存・活用に関する調査研究</p> <p>文化財保護委員会作成の音声資料調査、鼓洞・太鼓樽の調査、選定保存技術「文楽人形・床山」「能楽大鼓(革)制作」保存者調査、染織及び陶芸技術先行形調査・資料収集、染織素材と製材技術の科学的分析、陶芸に関する展示会の状況の調査研究、を実施した。宝生斎謡曲の音声記録、講談の実況記録を作成した。12月19日に第1回無研究文化遺産公開学術講座を実施した。韓国国立文化財研究所・ベトナム文化財研究所との研究交流協議を行った。</p> <p>平城宮跡東院地区(第401次)の発掘調査</p> <p>平城宮跡東院地区において発掘調査を実施した。掘立柱扉の位置が変化することや掘立柱建物の変遷から、奈良時代中頃に区画の位置の変化も含めた大きな改作があったことが明らかとなった。調査面積は1711㎡、調査期間は平成18年4月4日～平成18年4月18日、一時中断をはさみ、平成18年10月2日から再開して平成18年12月27日に終了した。</p> <p>平城宮跡東方官衙地区の調査</p> <p>今回の調査では、東西は50m、南北は120mを超える官衙区画を確認した。この区画は北院跡地から南側45mのところまで築地を設け、空間を区分している。特に区画南半では、北端に大型基壇建物が存在し、その南に長大な南北棟建物を対称に配置しているという調査知見を得た。さらに、第二次大極殿院東外郭の南方にも大型基壇南北棟建物が検出され、平城宮の東大溝と第二次朝堂院の間にも官衙が管まれていることも確認できた。</p> <p>西大寺日境内(第404, 410, 415次)の発掘調査</p> <p>マンション建設ともなう事前調査。調査地は平城京右京一条三坪八坪・北辺三坊三坪にあたる。調査は、南北約107m東西59mのL字形の調査区と(404・410次)建設予定建物の位置変更ともない</p>	<p>かになってきたことは長年の調査研究の結果として評価できる。</p> <p>また、平城宮跡東院地区の調査などに、瓦、凝灰岩の量の表示において重量測定が行われていることは、今後考古学上、これらの量的評価、また保管管理における収蔵庫などの強度計算などに役立つものと思われる。</p> <p>さらに、庭園に関する調査研究については、従来の「研究の空白」を埋める試みであり、極めて高く評価できる。</p>
---	--	--	---	--

<p>を行い、文化財防災のネットワーク化の一層の推進を図る。</p> <p>考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーマン分光分析法や高エネルギーX線CT・CR法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。</p> <p>伝統的修復材料や合成樹脂などの物性・製作技法・利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。</p> <p>また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修等を行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。</p> <p>近代の文化遺産に特徴的な鉄、コンクリート、プラスチックなどの複合素材及び技法について国際</p>			<p>設けた2箇所の小トレンチ(415次)にておこなった。調査期間は2006年5月24日~8月30日(404次)、7月31日~10月16日(410次)、10月24日~31日(415次)調査面積は合計1826㎡。</p> <p><受信研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・西大寺日境内(食堂院推定地)発掘調査 32,223千円 <p>興福寺大乗院(第407次)の発掘調査</p> <p>名勝・旧大乗院庭園を復原するための発掘調査の12年目にあたる。今回の調査地は旧大乗院庭園東大池の西岸に入り江州に残存する現在の西小池部分である。この調査をもって大乗院庭園の中核をなしていた西小池の池岸をすべて発掘したことになり、西小池の池岸の形状や大乗院庭園の造成に関してこれまでの調査の所見をさらに補強する成果が得られた。調査期間は平成18年7月3日、8月9日、調査面積は144㎡。</p> <p><受信研究></p> <ul style="list-style-type: none"> 名勝大乗院庭園埋蔵文化財発掘調査 2,221千円 <p>興福寺日境内果園推定地の発掘調査</p> <p>興福寺日境内果園推定地に於ける奈良弁護士会事務所新築に伴う事前調査である。南北20.2m、東西6mの調査区(121.2㎡)を設け、2007年2月5日~3月12日の間実施した。古代の様相は明らかではないが、中世の礎石建物2棟分を検出する成果を得た。建物は南北石組溝を雨落溝として共有、北端にも排水の石組を備えている。近世には大型礎を据えた礎土坑が多数あり、礎内面の漆痕跡から「塗師屋」の可能性が想定される。</p> <p><受信研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・興福寺日境内果園推定地 2,464千円 <p>藤原宮跡南院東第四堂発掘調査</p> <p>東第四堂の規模を確定することができた。桁行15間(168尺)・梁行5間(48尺)で、途中で梁行を4間に縮小している。東第四堂は東第三堂と同規模で計画され、同規模に縮小されている。これまでに調査した東第一堂、東第二堂、東第三堂、東第六堂それぞれの規模が異なるなか、東第四堂は東第三堂と同一規模であったという新発見を得ることができた。調査期間は平成18年4月3日から11月2日。</p> <p>本薬師寺跡住宅建設に伴う発掘調査</p> <p>南北棟の西僧房の東側主廊下に想定される地点を調査した。僧房の基壇外周部と推定される位置で、造営中に廃絶したと考えられる井戸を検出したが、僧房関係の遺構は検出できなかった。しかし、遺物包含層に凝灰岩片が含まれることや、調査面積の割に出土瓦の量が多く、その多くが本薬師寺の創建瓦であることから、近傍に瓦葺建物が存在した可能性は高いと考えられる。調査期間は平成18年7月18日~8月4日。</p> <p>来迎寺堀跡発掘に伴う確認調査</p> <p>飛鳥寺講堂の西南隅から南西部を調査した。既発掘の1個を含め、計5個の礎石と礎石据付穴1基を検出するなど、詳細なデータが得られた。講堂の規模は先の調査成果と合わせ、東西34.54m、南北18.46mであることが確定した。礎石は花崗岩製の巨大なもので、いずれも原位置を保ち、円形の柱座がある。また、基壇築成の詳細についても明らかとなり、わが国最初の寺院の中心伽藍の造営方法について重要な知見を得た。調査期間は平成18年10月30日~11月21日。</p> <p>石神遺跡(第19次)発掘調査</p> <p>調査区内において古墳時代以降の数度にわたる空間利用の変遷を追うことができた。7世紀前半頃に作られた幅22m以上もある巨大な南北溝を7世紀中頃に埋め立て、その上で2時期にわたる東西溝を検</p>	
---	--	--	---	--

<p>共同研究を実施し、その成果をもとに国内所在の近代文化遺産の保存・修復に関する手法を開発する。</p> <p>(4) 我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じ、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。</p>			<p>出し、これらは「山田道」に関連する遺構であるとの知見を得た。關原宮期の山田道の規模は、路面幅18m、溝心々間距離21～22mであったと推定することができた。調査期間は平成18年10月23日～平成19年5月29日。</p> <p>甘樫丘東麓遺跡発掘調査 7世紀代の3時期に分かれる大規模な整地や建物跡を確認した。7世紀前半には谷の東半に盛土をして一段高、平坦地をつくり、盛土の法面には石垣を築く。7世紀中頃、後半にも大規模な整地を行い、建物や炉等を築けており、7世紀代の活発な土地利用の様相が明らかになった。特に7世紀前半の盛土と石垣は、大規模な造営作業の所産であり、何らかの権力の存在を想定させる。調査期間は平成18年10月4日～平成19年3月14日。</p> <p><受託研究> ・甘樫丘平吉遺跡北方発掘調査 3,881千円</p> <p>平城京跡出土遺物の調査研究 本年度の平城宮・京跡発掘調査出土遺物ならびに出土遺構の整理、分析研究等及び出土遺物の保存と保存処理を年間を通じて発掘調査と併行して遅滞なく実施した。西大寺食堂院跡出土遺物については発掘調査概報『西大寺食堂院・北辺坊』を刊行した。平成17年度以前については第一次大極楽院跡出土遺物の基礎的分析作業を重点的に実施した。平城京跡出土陶器について『平城京出土陶器集成 - 平城京跡・寺院跡 -』（奈良文化財研究所史学第80冊）を刊行した。</p> <p><受託研究> ・西大寺日境内（食堂院推定地）出土遺構・遺物の整理 6,835千円</p> <p>飛鳥・關原京跡出土遺物の調査研究 關原京左京六条三坊の『発掘調査報告』や『紀要』での公表のための整理、及び平成18年度以前の出土遺物の整理を行った。山田寺跡から出土した建築部材、礎石等について整理を行い、これらの建築部材、出土品は平成19年2月に重要文化財の指定を受けた。韓国との共同研究では、慶州四天王寺址や皇城河内遺跡の発掘調査に参加した。木簡の整理は、『飛鳥・關原宮発掘調査出土木簡概報20』、木簡図録『飛鳥關原京木簡一』を作製した。</p> <p>古代瓦に関する研究集会の開催 白鳳期の重弁蓮華紋千丸瓦のうち、山城の櫻泉寺式瓦、河内の原山院寺式瓦、近江の湖東式の瓦、備中の備中式の瓦について検討した。瓦当文様などから朝鮮半島（新羅・百濟・高句麗）の瓦の影響を強く受ける資料や、中国の瓦と類似する資料が具体的に示され、それぞれの技術的な特徴や年代、各型式の国内における広がりについても明らかにすることができた。</p> <p>アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 中国社会科学院考古研究所とは唐長安城大明宮太極殿遺跡の出土遺物の研究を行い、魏都陽城の調査準備をおこなう。 中国陝西省文物考古研究所とは韓陽郡也区隋唐墓出土陶器遺物の調査研究、中国河南省文物考古研究所とは黃台唐三彩窯跡及び製品の調査研究、韓国国立文化財研究所とは日本と韓国の都城・王京形成を共同研究した。</p> <p>庭園に関する調査研究 平成18年度は平安時代庭園研究に関する現状と全体像を把握・整理する作業を行った。2006年10月に研究会を開催し、平安時代庭園研究の現状、平安時代庭園発掘調査の概要、史料から見た平安京の庭園、絵巻から見た平安時代の庭園、平安時代庭園の植栽、の研究報告があった。ホームベ</p>	
---	--	--	--	--

			<p>ージ上で公開している飛鳥通園データベースは、平成18年度は61件の新規データを和文と英文で追加した(計382件)</p> <p>飛鳥時代の歴史に関する調査研究 出土部材展示の経年変化の研究では1982年に出土した山田寺東回廊の出土部材を、展示後にセンサーを設置し、計測を続けてきている。 当館の研究の中には飛鳥時代の工芸技術の研究が含まれている。高松塚古墳出土海獣葡萄鏡をはじめとして唐式鏡を全国的にまとめて研究することが当館の研究目的に含まれている。今年度は当該研究として、高松塚古墳出土海獣葡萄鏡を主とした、中井谷海獣葡萄鏡の調査研究を行った。壁画古墳の研究としては、飛鳥地方の壁画古墳についての資料を収集すると共に、特に中国における壁画古墳の現状と、その保存に関する資料収集を行った。</p> <p>遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 遺跡の教育面に関する資料収集をおこない、「遺跡の教育面に関する活用」のテーマで遺跡整備・活用研究会を開催した。また、国指定史跡における遺構の露出展示に関する整備の資料を収集し、データベース化を始めた。また、文化庁から「特別史跡高松塚古墳反整備基本誌編纂業務」を受託し、基本誌編纂図書を作成した。そのほか、「宮中職員の復興による文化遺産の活用に関する研究会」を開催した。</p> <p>遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究 石造文化財の劣化診断のための超音波装置の試作と基礎的データの収集、石造文化財の変形・破壊のモニタリングを目的としたAE法の実用化をおこなった。遺跡の地中における水分状態の調査技術として、自然電位測定法ならびに比抵抗測定法を導入し、実用化した。土の水分含有率の変化に充分対応し、かつカビや雑草類の繁茂を防ぐことを目的に試作した有機性酸エステルを用いた実地試験をおこない、その効果を確認した。</p> <p>第一次大極楽院復元整備研究 本事業は、文化庁が計画している第一次大極楽院の整備計画を作成するもので、計画案の位置付けは、長期的な計画を見据えつつも、当面2010年の大極楽院正殿完成期を暫定的な整備計画である。「第一次大極楽院復元整備研究」の成果にもとづいて、平城宮の保存・管理・活用計画を見据えた整備計画を目指し、宮跡の管理・活用を検討するワーキンググループ内で検討をおこない、その結果をもとに、(財)文化財建造物保存支那協会が、計画の前提となる各種の容量計算をおこなった上で、図面化・資料化した。</p> <p><受託研究> ・特別史跡平城宮跡第一次大極楽院地区復元整備に関する調査検討業務 14,896千円</p> <p>・自己点検評価 文化財に関する基礎的・体系的な調査研究について、国内外の機関との共同研究・研究交流・受託研究等を含め上記のとおり実施した。法華堂正に併し新たに文化財として保護対象となった文化的景観や民俗技術などの分野への適切な取組みも含め各プロジェクト研究の実施状況に関する自己点検評価は「定性評価」「定量的評価」とも中期計画どおり、または中期計画を上回って履行できた。 このことから、中期目標に向けての実施状況としては、「満足」とであると判断する。</p> <p>(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進</p> <p>・実施状況</p>	<p>(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進</p> <p>文化財への科学技術を用いた調査手法</p>
--	--	--	---	--

			<p>高精細デジタル画像の応用に関する調査研究</p> <p>他機関との共同研究成果の報告を目指して、奈良国立博物館と薬師寺蔵「吉祥天像」、国立故宫博物院と李唐筆「万壑松風図」の成果刊行を目指して編集会議を行った。また、デジタルコンテンツの多目的利用の一環として黒田記念館群集展示(東京文化財研究所黒田記念館)「伴大納言絵巻」画像展示(出光美術館)等を行い、『国宝 紅白梅図屏風』(中央公論美術出版)の内容を、高精細デジタルコンテンツとして、当所閲覧室で公開した。</p> <p>文化財の非破壊調査法の研究</p> <p>彩色文化財の材質調査としてポータブル蛍光X線分析装置を用いて、国宝絵画をはじめとした多くの文化財の調査を行い、各作品に使われている材料・技法を明らかにした。また、有機染料分析に関する検討として、染織品を想定した試験片に対して、ファイバー型分光光度計を用いた紫外・可視反射分光スペクトル測定を行い、種々の条件を検討した。</p> <p>遺跡データベースの作成と公開</p> <p>官衙関連遺跡等の資料について、中部・近畿地方のデータ収集と関東以北のデータの補完作業を進めるとともに、市町村合併に対応して遺跡所在地の変更作業をおこなった。また、鳥根県以東の官衙関連遺跡については、公開用のデータベースを作成した。そのほか、豪族居宅の主要遺跡の遺構図等を収集整理し、郡衙および周辺の関連寺院の研究をおこなって報告書を刊行した。</p> <p>古代官衙・集落に関する研究集会の開催</p> <p>12月15・16日の両日に「古代地方豪族居宅の構造と機能」のテーマで研究集会を開催した。豪族居宅の構造・変遷の実態や、在地社会における地方豪族居宅の機能・役割等について、考古学サイドから6本、文献史学サイドから1本の報告があり、それをめぐる討論をおこなった。参加者は147名であった。また、昨年度の研究集会の研究報告論文・討論議録を掲載した『地方官衙と寺院』を刊行した。</p> <p>遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究</p> <p>遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法を研究し、全国の遺跡調査の質的向上と発掘作業の効率化に資するべく、機器の更新と実地テストを通じたデータの収集と分析を開始した。本年度は、地中レーダー探査8件、磁気探査1件、電気探査6件を実施し、デジタル写真などを用いた三次元計測技術の応用研究にも着手した。また、国内外の研究者を対象に、測量と探査に関するワークショップを開催した。</p> <p>年輪年代学研究</p> <p>7県下10遺跡から出土した考古学関連の木棺・木椁、国宝6棟・重要文化財1棟を含む7府県下9棟の建造物、国宝8点を含む6府県下の17躯の木簡像ならびに2点の工芸品に対して、年輪年代調査を実施した。また、マイクロフォーカスX線CTを用いた非破壊による年輪年代測定技術について研究し、同技術が木葉割に対しても有効であることを明らかにした。以上の研究成果の一部を、論文等3件、学会発表等4件として発表した。</p> <p>動物遺存体による環境考古学研究</p> <p>韓国慶南考古学研究所による金海へヒョンリ貝塚の報告書作成、中国浙江省考古文物研究所による田螺山遺跡の発掘に協力し、指導や助言を行った。現生動物骨格標本の標本作製は、貝類30点、両生・爬虫類11点、魚類50点、鳥類5点、哺乳類10点と11種であった。また、17年度に出版した『動物考古学の手引き』の英語版を刊行した。動物考古学の教科書は英語圏でも例がなく、世界中の動物考古学者に長く使い継がれるだろう。</p>	<p>については、年輪年代学にX線CT、デジタルカメラを導入して非破壊で画像などに応用がなされたことは高く評価される。</p> <p>動物遺存体による環境考古学研究の成果については、体系化され英文による手引き書が発刊されたことが高く評価される。</p> <p>高精細デジタル画像ならびにポータブル蛍光X線分析装置などの分析装置の絵画への応用は、美術史に大きな衝撃を与え、あわせてマスコミを通じての一般市民への啓発に寄与し、関心を引き出すなど大きな成果を得ていると考える。</p>
--	--	--	--	---

			<p><受信研究> ・東名遺跡出土動植物遺存体調査 1,918千円</p> <p>・自己点検・評価 文化財の調査法に関する研究開発について、上記のとおり調査研究・受信事業を実施した。文化財研究や文化財保護政策に資するための各プロジェクト研究の実施状況に関する自己点検評価は「定性評価」「定量的評価」とも中期計画どおり、または中期計画を上回って履行できた。このことから、中期目標に向けての実施状況としては、「調済」とであると判断する。</p> <p>(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的研究等の推進</p> <p>・実施状況 文化財の生物劣化対策の研究 害虫侵入の早期発見手法の可能性と、薬剤も利用した予防や処置など、すみやかな処法の基礎研究として、歴史的建造物(重要文化財)2棟の虫害調査を行った。また、シロアリの被害等の監視と早期発見に実績があるAEセンサーによる検出法の、他の文化財害虫への適用を検討するため、情報収集機器購入・調整を行った。博物館等での浮遊菌調査を通して、評価基準策定のための実験調査と除菌清掃などの各種対策の評価方法について検討した。「木質文化財の生物劣化対策」の研究会を開催した。</p> <p>文化財の保存環境の研究 山車、曳山を収蔵展示している博物館の環境、山倉の環境調査を行った。展示ケース内の湿度の安定性とVOCを考慮した上で展示ケースの換気回数の最適値を求めるため簡便な測定方法の確立とその測定精度に関する基礎研究を行った。いくつかの館では館内における温湿度、そして屋外における気象観測を行った。これらの測定結果をもとに館内環境のシミュレーション解析を行った。「文化財を取り巻く環境の温湿度解析」をテーマに研究会を開催した。</p> <p>周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 屋外文化財について周辺環境の計測を行い、その結果に基づき劣化要因の解明を行った。また、その影響を軽減するための修復材料や修復手法の開発・評価を行った。今年度の成果は主に、1)白川斎堂仏における凍結劣化対策実験の実施、2)確永山輪矢首銅蓮華彫刻におけるレンガ敷点検の把握、3)木造建造物の腐朽に関する調査、4)韓国国立文化財研究所との共同研究・研究報告会の開催があげられる。</p> <p>文化財の防災計画に関する調査研究 本研究は、地震や台風などの自然災害から文化財を守るために必要な情報を、地理情報システム(GIS)を用いてデータベース化し、それを分析することで災害予測を行う。また、災害時の文化財救済種別や被災文化財の応急修復方法の確立も目的としている。今年度はGISを用いた文化財防災情報システムの開発、阪神淡路大震災や新潟県中越地震において被災した文化財建造物の調査調査及び文化財の防災計画に関する研究会を行った。</p> <p>考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実証的研究 標準資料および考古遺物のラマンスペクトルを収集し、キトラ古墳壁画の剥離分析に適用した。また、考古遺物のX線CT撮影、オートラジオグラフィおよびX線OR撮影をおこない、基礎的データを収集した。シンクロトロン顕微鏡赤外分析法による出土絹織物の埋蔵中の劣化について分析を進めた。超臨界液体乾燥法を用いた酸化含量に用いる薬剤の検討をおこなった。日中韓による「東アジア保存修復国際会議専門家会議」を開催した。</p>	<p>(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的研究等の推進</p> <p>山田寺出土遺物の重要文化財指定は、今までの調査研究及び保存措置が高く評価されたものと考えられる。その上で、展示保管上の課題としてセンサーによる木材の経年変化の追跡が継続されていることは、特に重要なことと思われる。過去、長期的安定性の調査として寺院の古建築の定点観察による写真測量がなされていたと思われるが、それらについても期待したい。</p> <p>科学技術の具体的な実施例としてモバイル型AE法(物質の破壊に伴って発生する微細な音波・振動を検出し検査に利用する方法)が高松塚古墳石室解体に用いられたことは最も的確であり、モバイル型の取扱いの良さなど、今後の普及に期待する。</p> <p>自然界における遺跡、磨崖仏、古墳内壁画などの保存については、大きな課題を抱えている。それらを対象とした調査</p>
--	--	--	--	--

			<p>伝統的修復材料及び合成糊剤に関する調査研究</p> <p>伝統的修復材料及び合成糊剤に関する調査研究では、本年は特に、染色に用いられる染料および媒染剤、焼付け漆、合成糊剤に着目して調査研究を行った。さらに伝統的な染色技法についての研究会およびワークショップを開催した。合成糊剤に関する調査研究では、建造物修復で使用されている塗装や強化材料を対象に現状調査を行った。漆の実地的暴露試験では、焼付け漆の表面密度に着目して実験を行った。</p> <p>国際研修「紙の保存と修復」</p> <p>本年の国際研修は「第10回紙の保存と修復」を行った。10カ国から10人の研修生が参加した。研修内容は、実技、講義、見学という構成とした。実技では紙本文化財の修復技法を中心に、代表的な形態の紙本文化財の取り扱いまでを研修した。また、行政、科学、絵画技法などの側面から和紙に関する講義を行った。また、岐阜県美濃市において和紙工房や和紙の博物館、京都府において紙本文化財修復工房の見学を行った。</p> <p>在外日本古美術品保存修復協力事業</p> <p>海外の美術館、博物館が所蔵する評価の高い作品の修復に協力し、併せて対象作品を所蔵している博物館等と共同で、保存修復に関連する研究を行っている。平成18年度は、9館11点の作品を修復した。また、絵画の事前調査は、ピクトリア美術館やローマ東洋美術館など、工芸品は、フレンツ・ホップ東洋美術館やウィーン国立民族学博物館、美術史博物館（ウィーン）などで行った。また、平成17年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。</p> <p>近代の文化遺産の保存修復に関する研究</p> <p>近代の文化遺産は、従来の文化財とは、規模、材質、製造方法などに大きな違いがあるため、保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行った。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の立案、航空機、船舶、鉄道車両などの保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目的として調査研究を行った。</p> <p>・自己点検評価</p> <p>最新の科学技術の活用による保存科学に関する調査・研究、伝統的な修復技術・製作技法、利用技法に関する調査・研究を上記のとおり実施した。</p> <p>保存科学や修復技術に関する先端的な各プロジェクト研究の実施状況に関する自己点検評価は「定性的評価」「定量的評価」とも中期計画どおり、または中期計画を上回って履行できた。</p> <p>このことから、中期目標に向けての実施状況としては、「川崎調」であると判断する。</p> <p>(4) 我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じ、保存措置等のために必要な実証的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。</p>	<p>や、保存法に新しい手法とその成果に注目したい。</p> <p>具体的には、自然電位測定法等による地中の水分状態の調査、妻木晩田遺跡などでのカビ・蘚苔類の防止のための有機珪酸エステルの実験試験、白杵の磨崖仏への紫外線灯照射実験など様々なプロジェクトが実施されていることは高く評価される。</p> <p>紙の保存と修復に関する調査研究と外国人を対象にした研修システムは高く評価できる。</p> <p>在外日本古美術品保存修復協力事業などを通して、修復の実施、東洋美術の保存修復者の育成がなされ、各国の研究者との交流が継続的になされ成果を上げていることは高く評価される。</p> <p>近代の文化遺産の保存修復に関する研究については、飛行機、船舶、鉄道車両など産業史に係わる分野も、非常に重要な産業文化史となるものであり、企業とうまく連携して、今後も進めていきたい。</p> <p>(4) 我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財についての迅速</p>
--	--	--	--	--

			<p>・実施状況</p> <p>文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力</p> <p>キトラ古墳では、温湿度等の環境監視、週2回のカビ点検・処置、微生物の分離測定等を実施した。またダイヤモンドソーを用いる手法を開発し、12月に真、2月に朱雀を取り外した。</p> <p>高松塚古墳では、石室の環境・生物調査の他、加茂市の実験場で作られた実大の石室模型を用いて解体に使用する治具の改良等を行った。10月から発露調査に着手し、上端調査区の調査を12月末に終え、1月の断熱被覆の建設後、下端調査区の調査を実施し、3月に石室の全体を検出した。この他、石室解体後の仮整備の方法について検討し、仮整備案を作成した。</p> <p>< 受託研究 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務 112,259千円 ・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務 62,100千円 ・高松塚古墳壁画保存施設改善予定地発露調査 1,421千円 ・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務 121,386千円 <p>外部機関の要請に基づく文化財の保存修復に関する実証的研究</p> <p>平成18年度は、受託研究として、文化庁2件、地方公共団体及び財団等4件（鳥取県教育委員会1件、長野県教育委員会1件、三重県教育委員会1件、奈良県教育委員会1件）を実施した。</p> <p>< 受託研究 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財鳥根早加茂岩倉遺跡出土品事前調査 6,500千円 ・重要文化財鳥根早加茂岩倉遺跡出土品保存修理 5,902千円 ・国宝唐招提寺金堂壁画彫刻分析調査業務委託 566千円 ・妻木晩丘遺跡土質調査露出展示支去研究 866千円 ・クスノキ製袴り抜き井戸の真空乾燥が腐蝕による保存 520千円 ・長野県千曲市社宮司遺跡出土の六角木幢保存修復委託業務 1,732千円 <p>・自己点検評価</p> <p>我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて上記のとおり実施した。</p> <p>キトラ古墳・高松塚古墳とも今後の保存を進めていく上で、重要な資料を得るなど、高い調査研究の水準で事業を進めることができた。その他外部機関からの要請による実践的研究も含め、キトラ古墳・高松塚古墳の実施状況に関する自己点検評価は、「定性的評価」（特に即時性、発展性、正確性の観点において評価できる。）、「定量的評価」とも中期評価を上回って履行できた。また、キトラ古墳においては、壁画の取り外し手法として「ダイヤモンドソー」を開発するなどの世界で初めての取組みも評価できる。</p> <p>このことから、中期目標に向けての実施状況としては、「Ⅲ段階」とであると判断する。</p>	<p>かつ適切な実証的調査・研究</p> <p>受託研究が多数実施され、かつ良好な成果を得ていることは評価される。</p> <p>中でも、高松塚古墳の石室解体、キトラ古墳の壁画の取り上げなどについての用意周到な予備実験と「ダイヤモンドソー」などの必要な道具類の開発、機器類の適用など、適宜活用し成果を得たことは何よりも評価できる。</p> <p>これまで保存処理が困難であったクスノキ製袴り抜き井戸の真空乾燥が腐蝕による成果は、出土木製遺物の保存処理の幅を広げるものと考ええる。</p>
--	--	--	---	--

<p>3. 調査研究の成果の状況</p> <p>調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p>(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進</p> <p>・成果の状況</p> <p>文化的景観に関する調査研究(論文1件) 論文:「四万十川流域の文化的景観」奈良文化財研究所紀要2007 民俗文化財に関する調査・資料収集 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(論文2件、発表2件) 論文:「無形文化遺産保護における国際的枠組み形成」無形文化遺産研究報告1 「無形民俗文化財映像記録の有効な保存・活用のための提言」情報の共有と開かれた利用の実現に向けて?」無形文化遺産研究報告1、 発表:「無形文化遺産保護条約と日本の芸能」楽劇学会第54回例会 東京文化財研究所の無形文化遺産保護のための取り組み」第30回文化財の保存および修復に関する国際研究集会 東アジアの美術に関する資料学的研究(論文2件、学会、発表7件) 論文:「雪舟入明補遺?シンポジウム報告と「破墨山水図」のここと?」天開圖畫6 「雪舟自序を読む」雪舟等楊?「雪舟への旅」展 研究図録 発表:「大谷宗賢刻来衆人奏刻図?図像の再検討と光学的・科学的調査による知見?」総合研究会 東京文化財研究所セミナー室 「10世紀の造寺造仏」第40回美術部オープンレクチャー 東京文化財研究所セミナー室 「雪舟と宗基」第40回美術部オープンレクチャー 東京文化財研究所セミナー室 「雪舟と山口(江戸時代篇)」「雪舟への旅」展 講演講座 山口県立美術館 「管物語図の系譜および土佐派の物語絵について?宗達、光琳へとつづく絵画表現の水脈?」美術部研究会 「横浜・龍華寺蔵 菩薩半跏像をめぐる知見」美術部研究会 「平安時代前期の工房と上層階級の造像」美術部研究会 近現代美術に関する総合的研究(論文3件、発表数3件) 論文:「絵画の重さについて-『場からの創出』という問題のための断章」佐川晃司展-場からの創出』図録 「後期印象派・考-1912年前後を中心に」『美術研究』390号 「団十郎の“腹芸”、雅邦の“心持”」河野元昭先生退官記念論文編集委員会『美術史家大いニ笑う 河野元昭先生のための日本美術史論集』ブリュッケ 発表:「絵画の家郷」京都工芸繊維大学・京都国立近代美術館共同シンポジウム 「『画家の居る「場所」』のその後と現在について」九州大学文学部 「川端玉章の研究」美術部研究会 美術の技法・材料に関する広領域的研究(論文1件、発表2件) 論文:「研究資料 善光寺式阿彌陀如来像ならびに観音菩薩像」『美術研究』390号 発表:「三国をめぐる中世の仏教世界観とその造形への視座」美術史学会全国大会招待発表 「善光寺式阿彌陀如来像 仏像そのものを原型として模刻増殖する作例の紹介」美術部研究会 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究(論文2件、発表1件) 論文:「黒草紙・新黒草紙(薬師寺所蔵)」『奈良文化財研究所史料第78冊』 「大宮家文書の原本調査から」奈良文化財研究所紀要2007 発表:「経巻、聖教と函」奈良文化財研究所退官記念講演会</p>	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>調査研究の成果について、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表等の定量的観点からも、活発な種が行われ、ひいては我が国の文化財保護政策に寄与するものと考えられる。</p> <p>一方で、主要なものをわかりやすく説明・紹介し、一般に関心を抱かせる工夫が必要である。</p> <p>なお、『動物考古学の手引き』の英語版が出版され、世界で初の動物考古学の書となることは、文化財研究所ひいては日本の動物考古学の水準の高さを示すとともに、世界に対する文化的貢献として高く評価すべきものと考ええる。</p>
---	--------------------------	--	---

			<p>歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究(論文11件、発表2件) 論文:「高知県中芸地区森林鉄道遺産の調査」 「栄耀普請土蔵の建築技法-塩尻市・重要文化財堀内家住宅の建造物調査から-」 「塩尻市・堀内家住宅の庭園構成と意匠」 「塗装と飾金具、国宝・三仏寺投入堂の荘厳」 「出雲大社兼外社の調査」 「飛鳥・白鳳期寺院建築における二重構造」 「古代建築における扉の構造と意匠-第一次大極殿復原扉の再検証-」以上奈良文化財研究所紀要2007 「三佛寺興院の塗装と垂木古口金具」 『国宝三佛寺興院(投入堂)ほか三棟保存修理工事報告書』三佛寺 「大極殿の復原検討 古代建築としての大極殿」,「第一次大極殿の屋根瓦」,「大極殿の内部装飾」以上文化庁月報2006年7月号 発表:「飛鳥・白鳳期寺院金堂における2階建構造」 「飛鳥・白鳳期寺院井門における2階建構造」奈良文化財研究所 第1回古代建築の技術研究会 無形文化財の保存・活用に関する調査研究(論文4件、発表3件) 論文:「過渡期の鼓洞その後」無形文化遺産研究報告1 『吉田兵次「とやうれ」』無形文化遺産研究報告1 「歌舞伎SPレコード(明治大正期)図版解説」歌舞伎 研究と批評38 【聞き書き】人形浄瑠璃文楽の鬘・床山の世界 名趣司可部に聞く 無形文化遺産研究報告1 発表:「文化財保護委員会作成の無形文化遺産録音資料をめぐって」第4回総合研究会東京文化財研究所セミナー室 「鶴尺清八の義太夫節解説」第1回無形文化遺産部公開学術講座 江戸東京博物館 「善竹弥五郎の狂言謡」第1回無形文化遺産部公開学術講座 江戸東京博物館 平城宮跡東院地区(第401次)の発掘調査(論文4件、発表2件) 論文:「東院地区の調査 第401次」奈良文化財研究所紀要2007、 奈良文化財研究所「東院地区の調査 平城第401次調査」記者発表資料、奈良文化財研究所「東院地区の調査 平城第401次調査」現地説明会資料、奈良文化財研究所「平城宮東院地区の調査 平城第401次調査」『奈文研ニュースNo.24』 発表:奈良文化財研究所「東院地区の調査 平城第401次調査」記者発表、奈良文化財研究所「東院地区の調査 平城第401次調査」現地説明会 平城宮跡東方官衙地区の調査(論文3件、発表2件) 論文:「平城第406次 東方官衙地区の調査」奈良文化財研究所紀要2007、奈良文化財研究所「平城第406次 平城宮第二次大極殿院東方官衙地区の調査 記者発表資料」、奈良文化財研究所「平城第406次 平城宮第二次大極殿院東方官衙地区の調査 現地説明会資料」 発表:奈良文化財研究所「平城第406次 平城宮第二次大極殿院東方官衙地区の調査 記者発表」、奈良文化財研究所「平城第406次 平城宮第二次大極殿院東方官衙地区の調査 現地説明会」 西大寺日境内(第404、410、415次)の発掘調査(論文10件、発表5件) 論文:「平城第404・410・415次調査 西大寺食堂院・右京北辺の調査」奈良文化財研究所紀要2007 『西大寺食堂院・右京北辺発掘調査報告』 奈良文化財研究所「平城第404次調査(西大寺食堂院の調査)記者発表資料」 奈良文化財研究所「平城第404次調査(西大寺食堂院の調査)現地公開資料」 奈良文化財研究所「平城第410次調査(西大寺食堂院・北辺坊の調査)記者発表資料」</p>	
--	--	--	--	--

			<p>奈良文化財研究所「平城第410次調査(西大寺食堂院・北辺坊の調査)現地朔月会資料」 奈良文化財研究所「西大寺食堂院跡(平城第404次調査)検出井戸 記者発表資料」 奈良文化財研究所「西大寺日境内食堂院の調査(平城第404次)」『奈文研ニュース』No.22 奈良文化財研究所「西大寺食堂院の井戸」『奈文研ニュース』No.23 奈良文化財研究所「西大寺食堂院などの調査(平城第410次)」『奈文研ニュース』No.23 発表:奈良文化財研究所「平城第404次調査(西大寺食堂院の調査)記者発表」 奈良文化財研究所「平城第404次調査(西大寺食堂院の調査)現地公開」 奈良文化財研究所「平城第410次調査(西大寺食堂院・北辺坊の調査)記者発表資料」 奈良文化財研究所「平城第410次調査(西大寺食堂院・北辺坊の調査)現地朔月会資料」 奈良文化財研究所「西大寺食堂院跡(平城第404次調査)検出井戸 記者発表資料」 興福寺大乗院(第407次)の発掘調査(論文1件 発表2件) 論文:「日大乗院庭園の調査?第407次」奈良文化財研究所紀要2007 発表:「大乗院と飛鳥小学校?出土品にみる学びと遊び」、「大乗院庭園の岸辺の造景」文化講演会・大乗院文化サロン 興福寺日境内果園推定地の発掘調査 藤原宮跡東院東第4堂発掘調査(論文5件 発表2件) 論文:「朝堂院東第4堂の調査-第142・144次」奈良文化財研究所紀要2007、 「飛鳥藤原第142・144次調査」記者発表資料、「飛鳥藤原第142・144次調査」現地朔月会資料 「飛鳥藤原第142次調査」奈文研ニュース 21、「飛鳥藤原第144次調査」奈文研ニュース 23 発表:「飛鳥藤原第142・144次調査」記者発表、「飛鳥藤原第142・144次調査」現地朔月会 本薬師寺跡住宅建込に伴う発掘調査(論文1件) 論文:「本薬師寺跡の調査」奈良文化財研究所紀要2007 来迎寺塀新築に伴う確認調査(論文4件 発表2件) 論文:玉田芳英「飛鳥寺跡の調査」奈良文化財研究所紀要2007、 「飛鳥寺講堂跡の調査」記者発表資料、「飛鳥寺講堂跡の調査」現場公開資料 「飛鳥寺講堂の調査」奈文研ニュース 23 発表:「飛鳥寺講堂跡の調査」記者発表、「飛鳥寺講堂跡の調査」現場公開 石神遺跡(第19次)発掘調査(論文3件 発表2件) 論文:「石神遺跡の調査-第145次」奈良文化財研究所紀要2007、「石神遺跡の調査-石神遺跡第19次調査」記者発表資料「石神遺跡の調査-石神遺跡第19次調査」現地朔月会資料 発表:『石神遺跡の調査-石神遺跡第19次調査』記者発表「石神遺跡の調査-石神遺跡第19次調査」 現地朔月会 甘樫丘東麓遺跡発掘調査(論文3件 発表2件) 論文:「甘樫丘東麓遺跡の調査」奈良文化財研究所紀要2007、 『甘樫丘東麓遺跡の調査』記者発表資料、「甘樫丘東麓遺跡の調査」現地朔月会資料 発表:『甘樫丘東麓遺跡の調査』記者発表、「甘樫丘東麓遺跡の調査」現地朔月会 平城京跡出土遺物の調査研究(論文5件) 論文:『平城京出土陶器集成-平城京跡・寺院跡-』奈良文化財研究所史料第80冊 『西大寺食堂院・右京北辺発掘調査報告』、『西大寺食堂院の井戸』速報展資料 発掘成果展 平城2006『奈良の都を掘る』 飛鳥資料館併行特別展『飛鳥の金工 海峯館海鏡の諸相』 飛鳥・藤原京跡出土遺物の調査研究(論文2件) 論文:『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡群報告20』奈良文化財研究所『飛鳥藤原京木簡一』 古代瓦に関する研究集会の開催(発表11件)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>発表：奈良文化財研究所『飛鳥白鳳の瓦づくり 重弁蓮華文軒瓦の展開 発表要旨』 アジアにおける古代都城遺跡 生産遺跡 墓制及び陶磁器に関する中国 韓国との共同研究(論文5件) 論文：「河南省鞏義市黃台窯唐三彩陶器の科学的分析」華夏考古2007年第二期 パネル展「日中共同唐大明宮太極殿の発掘調査」A4パンフレット、 「河南省文物考古研究所との共同調査成果」総合研究会第17回資料集、 「新羅王京の発掘調査」奈良文化財研究所紀要2007、 「新羅王京の発掘調査 日韓共同発掘調査交差成果報告」総合研究会第17回資料集 庭園に関する調査研究(論文3件 発表4件) 論文：「五月五日節会の復興に関する研究」遺跡学研究第3号、 「宇宙を象る宮殿 - 平城宮第一次大極殿跡院 -」東アジアの古代文化 2006.8、 「宇宙を象る宮殿 - 平城宮第一次大極殿跡院の設計思想 -」日本史の方法第5号、 発表：「平安時代庭園研究の現状」2006.10、 「平安時代庭園発掘調査の概要」2006.10、 「平城宮跡東院庭園の植栽復原」日本遺跡学会 2006年度大会発表資料集、 「平城宮第一次大極殿跡院の設計思想と整備のあり方」奈良女子大学COE国際シンポジウム 2006.11 飛鳥時代の歴史に関する調査研究 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究(論文5件 発表1件) 論文：「遺跡の教育面に関する活用の現状」『奈良文化財研究所紀要2007』2007 「五月五日節会の復興に関する研究」『遺跡学研究第3号』日本遺跡学会2006.11 「ソウル景福宮での守門交代儀式について」『遺跡学研究第3号』日本遺跡学会2006.11 「カナダ ランス・オー・メドー遺跡の整備」『遺跡学研究第3号』日本遺跡学会2006.11 「高松家古墳石室の3D測量」『遺跡学研究第3号』日本遺跡学会2006.11 発表：「五月五日節会の復興に関する研究」宮中儀礼の復興による文化遺産の活用に関する研究会 2007.2 遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究(論文7件 発表4件) 論文：石造文化財の劣化状態を知るための打音聴察法への応用 打撃音の周波数解析と浮き・空洞の 検出」『日本文化財科学会第23回大会研究発表要旨集』2006.6 「カンボジア・西トップ寺院遺跡の保存科学的研究 1」『日本文化財科学会第23回大会研究発表 要旨集』2006.6 「イースター島モアイ石像の保存科学的研究」『奈良文化財研究所紀要2006』2006.6 「遺跡の露出展示に向けた基礎的研究」『奈良文化財研究所紀要2006』2006.6 「石室解体にむけた実験」『文化庁月報No.461』2007.2 「妻木晩田遺跡における保存科学的研究 環境調査から」『東アジア文化財保存修復国際会議 専門家会議要旨集』2006.9 「溶出実験による石材の化学的風化に関する考察」『東アジア文化財保存修復国際会議専門家 会議要旨集』2006.9 発表：石造文化財の劣化状態を知るための打音聴察法への応用 打撃音の周波数解析と浮き・空洞 の検出」『日本文化財科学会第23回大会』 「カンボジア・西トップ寺院遺跡の保存科学的研究 1」『日本文化財科学会第23回大会』 「妻木晩田遺跡における保存科学的研究 環境調査から」『東アジア文化財保存修復国際会議 専門家会議』 「溶出実験による石材の化学的風化に関する考察」『東アジア文化財保存修復国際会議専門家 会議』 第一次大極殿復原整備研究(論文2件)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>論文：「平城宮跡の再整備 中核施設の配置計画」『奈良文化財研究所総合研究会（第17回）資料集』所収 「平城宮跡の再整備 中核施設の配置計画」『奈良文化財研究所紀要 2007』所収</p> <p>・自己点検評価 学術雑誌等への掲載論文数89件、学会、研究会等での発表件数59件であり、上記のとおりであった。 「定性的評価」「定量的評価」とも中期計画どおりまたは、中期計画を上回って実施されており、中期目標に向けての実施状況は「順調」とであると判断する。</p> <p>(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進</p> <p>・成果の状況 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究(論文5件 発表1件) 論文：Identification of Painting Materials Used for Mural Paintings by Image Analysis and XRF Advance in X-ray Analysis 49, 2006.10 「文化財の製作技法を探る - デジタル画像を用いた絵画技法の検証」『社団法人日本非破壊検査協会誌』第55巻7号2006.7 「高松塚古墳壁画の彩色材料について」『仏教藝術』290号 毎日新聞社2007.2 「写真の進歩 9.2文化財」日本写真学会誌(科学写真研)9巻3号 2006.6 「現代によみがえる源氏物語絵巻」科学技術白書(平成18年度)2006.6 発表：Non-destructive Analysis of a Painting, National Treasure in Japan. The 55th Annual Denver X-ray Conference, Denver, 06.8.7 文化財の非破壊調査法の研究(論文2件 発表2件) 論文：「伊藤岩中『蓮華藏』の彩色材料について」『保存学』46 2007.03 「紫外・可視赤外線分光法による漆の非破壊分析のための基礎研究(3) - 漆製品を想定した透過紫外分光法測定 -」『保存学』46 2007.03 発表：「根津美穂館蔵『花鳥図』の経緯調査」日本文化財学会第23回大会 東京学芸大学 2006.6.17 「漆工品における藍の分光分析法による非破壊検出法(2)」日本文化財学会第23回大会 東京学芸大学 2006.6.17</p> <p>遺跡データベースの作成と公開(論文1件 発表4件) 論文：「上神主・茂原官衙遺跡群の倉庫群をめぐって」『栃木県考古学会シンポジウム 上神主・茂原官衙遺跡の諸問題』2007.2 発表：「地方官衙と交通」『古代交通研究会 第13回資料集 官衙と交通』2006.7 「地方豪族居宅の空間的構成」『古代官衙・集落研究会 古代豪族居宅の構造と機能 研究報告資料』2006.12 「京内貴族邸宅の構造 平城京を中心に」『古代官衙・集落研究会 古代豪族居宅の構造と機能 研究報告資料』2006.12 「上神主・茂原官衙遺跡群の倉庫群をめぐって」『栃木県考古学会シンポジウム 上神主・茂原官衙遺跡の諸問題』2007.2</p> <p>古代官衙・集落に関する研究集会の開催(論文1件 発表7件) 論文：奈良文化財研究所『在地社会と仏教』2006.12 発表：奈良文化財研究所『古代官衙・集落研究会 古代豪族居宅の構造と機能』2006.12 遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究(論文1件 発表3件) 論文：「奈良文化財研究所における最近の遺跡調査」『埋蔵文化財ニュース第127号』2007.3</p>	
--	--	--	---	--

			<p>発表：日本文化財調査学会、奈良文化財研究所総合研究会 年輪年代学研究（論文3件 発表4件） 論文：弥生時代の年輪年代、『新弥生時代の始まり 第1巻 弥生時代の新年代』雄山閣、2006.4 “Nondestructive tree-ring measurements for Japanese oak and Japanese beech using micro-focus X-ray computed tomography”, Dendrochronologia, Volume 24, Issues 2-3, February 2007 「年輪年代測定」『西大寺食堂院・右京北辺発掘調査報告』2007.3 発表：年輪年代法と弥生～古墳時代へ 年輪年代研究からの提言」日本考古学協会第7回総会 東京学芸大学、2006.5 “Non-destructive dendrochronological study of a wooden sculpture of a guardian dog using micro-focus X-ray computed tomography”, 7th International Conference of Dendrochronology, Beijing, China, July 2006 “Dendro-dating of ancient temples inscribed as World Heritage site in Nara, Japan”, 7th International Conference of Dendrochronology, Beijing, China, July 2006 「人魚を裸にする X線CTが暴く人魚の正体」葉山高等研究センタープロジェクト 人間生命科学 奈文研 2007.2 動物遺存体による環境考古学研究（論文12件 発表8件） 論文：「佐賀県佐賀市東名遺跡の調査」『考古学研究』53-1 2006.6 「動物資源の利用と変遷 骨角器と皮革の生産」『鎌倉時代の考古学』高志書院 2006.6 “The question of prehistoric plant husbandry during the Jomon Period in Japan”, World Archaeology, Vol.38(2), Taylor&Francis, June 2006 「佐賀市東名遺跡群の発掘」『ピオストーリー Vol.6』生き物文化誌学会 2006.11 「辞書項目（鮎、犬、猪、馬、牛、猿、鹿、鶏、猫、蛇、脂肪酸分析、貝塚、環境考古学）」『歴史考古学大辞典』吉川弘文館、2007.2 Fundamentals of Zooarchaeology of Japan, Kyoto, Japan, March 2007 発表：日本考古学協会2件（東京学芸大学）近畿地区連合獣医師大会（京都）、和泉市制施行50周年記念シンポジウム（和泉市）、日本人類学会（高知医科大学）、名古屋大学AMSシンポジウム、富山県埋蔵文化財センター職員研修、DNA考古学研究会（京都）</p> <p>・自己点検評価 学術雑誌等への掲載論文数25件、学会、研究会等での発表件数29件であり、上記のとおりであった。 「定性的評価」「定量的評価」とも中期計画どおりまたは、中期計画を上回って実施されており、中期目標に向けての実施状況は「満足」とであると判断する。</p> <p>(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進</p> <p>・成果の状況 文化財の生物劣化対策の研究（論文2件 発表3件） 論文：浮遊真菌調査を用いた動的な室内環境評価法の実証 -特別史跡キトラ古墳復元展示室をモデルとして-、『保存科学』46 2007 旧日向別邸ブルーノ・タウト「熱海の家」の虫害調査 -フルボンシウムシ (Gastrallus sp.) による木材の被害例について-、『保存科学』46 2007 発表：二酸化炭素処理場における多孔質材質のひずみの測定と最適な処理条件の実証 文化財保存修復学会大会 東京 2006.6.3-4</p>	
--	--	--	--	--

			<p>燻蒸剤等各種殺菌殺菌処理がタンパク質材質（標本、膠、絹）に及ぼす影響の検討 文化財保存修復学会大会 東京 2006.6.3-4</p> <p>文化財の保存環境の研究（論文3件 発表3件）</p> <p>論文：「静岡県立美術館における湿度環境の測定」『保存科学』46 2006.3</p> <p>「文化財公開施設の空気調湿設備等の設置状況 - 保存環境調査から - 」『保存科学』46 2006.3</p> <p>Study of Ventilation Rate Measurements for Showcases and Facilities in Museum. Proc. of 12th International Symp. on Building Physics, Dresden 2007,3.</p> <p>発表：「熊本城「細川家舟屋形」の耐震建材による展示環境の改善」文化財保存修復学会第28回大会 国士舘大学 2006.6.3-4</p> <p>「展示ケースの換気回数測定のための基礎実験」文化財保存修復学会第28回大会 国士舘大学 2006.6.3-4</p> <p>「災害と文化財 / 事例報告 - 緊急避難した文化財を取り巻く諸問題 - 」文化財保存修復学会第28回大会 国士舘大学 2006.6.3-4</p> <p>周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（論文4件 発表4件）</p> <p>論文：「日本における磨崖仏保存施設の現状」『文化財保護施設の改善方案に関する国際シンポジウム』報告書 国立文化財研究所（大韓民国） 2006.11</p> <p>「覆屋が磨崖仏保存環境に与える影響と凍結防止策の検討」『韓日共同研究報告書 2006』国立文化財研究所（大韓民国）/東京文化財研究所 2006.11</p> <p>"Investigation on the Conservation Environment for the Shelter of Stone Cultural Heritages -Focused on the Standing Stone Buddhist Triad in Bae-ri, Gyeongju and Rock-carved Triad Buddha in Seosan-" 『韓日共同研究報告書 2006』 国立文化財研究所（大韓民国）/東京文化財研究所 2006.11</p> <p>"Dilation of bricks submitted to frost action: field data and laboratory experiments" Proceeding of Heritage, Weathering and Conservation Conference Taylor & Francis 2006.7</p> <p>発表："Dilation of bricks submitted to frost action: field data and laboratory experiments" Heritage, Weathering and Conservation (HWC-2006) Conference The Spanish Council for Scientific Research (CSIC) 2006.6.21-24</p> <p>「白杵磨崖仏における凍結防止策の検討」 日本文化財科学会第23回大会 東京学芸大学 2006.6.17-18</p> <p>「日本における磨崖仏保存施設の現状」文化財保護施設の改善方案に関する国際シンポジウム 国立古宮博物館（大韓民国） 2006.11.14</p> <p>「覆屋が磨崖仏保存環境に与える影響と凍結防止策の検討」 日韓共同研究・2006年度研究報告会 国立文化財研究所（大韓民国） 2006.11.15</p> <p>文化財の防災計画に関する調査研究（論文1件 発表1件）</p> <p>論文「GISを用いた文化遺産防災の新たな取り組み」文化遺産防災フォーラム in 山形 東北理工科学 2006.10.21</p> <p>発表：森井順之 高尾曜 「震災による被災した文庫の現状」『文庫防災計画に関する研究/第2回研究会 震災から文庫をまもる』 東京文庫研究所 2007.2</p> <p>考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実証的研究（論文12件 発表10件）</p> <p>論文：「出土絹織物の顕微赤外分析と将来への保存に向けて」『日本文化財科学会第23回大会研究発表要旨集』2006.6</p> <p>「出土陶磁器の保存科学的研究 表面の光学的物性変化と保存処理」『日本文化財科学会第23回大会研究発表要旨集』2006.6</p> <p>「絹文化財のセリシン層に関する顕微赤外分析の基礎検討」『日本文化財科学会第23回大会研究</p>	
--	--	--	---	--

			<p>発表要旨集』2006.6 「桃山文化期の漆塗料に関する新発見」『文化財保存修復学会第28回大会研究発表要旨集』2006.6 「リグノフェノールを用いた出土木材の保存処理 強度の向上および寸法変化の抑制制について」『文化財保存修復学会第28回大会研究発表要旨集』2006.6 「キトラ古墳の漆喰に関する保存科学的調査」『東アジア文化財保存修復国際会議専門会議要旨集』2006.6 「古代アジアガラスの科学的研究 日本と東アジア」『東アジア文化財保存修復国際会議専門会議要旨集』2006.9 「古墳出土織物製品の保存と将来の分析について 下池山古墳出土織物製品に浸透した剥離剤除去」『東アジア文化財保存修復国際会議専門会議要旨集』2006.9 「青谷上寺地蔵堂出土木製容器の彩色に関する調査 木製容器に利用された赤色顔料の特性を中心として」『東アジア文化財保存修復国際会議専門会議要旨集』2006.9 「出土陶磁器の分析 ベトナム青花を中心に」『東アジア文化財保存修復国際会議専門会議要旨集』2006.9 「長者屋敷遺跡出土転用硯の顔料分析」『鳥取県教育文化財調査報告書107』2006.6 「白水瓢塚古墳出土ガラス小玉・連玉の分析調査」『神戸市教育委員会白水瓢塚古墳発掘調査報告書（編集集中）』 発表：文化財保存修復学会大会4件、日本文化財科学学会大会1件、東アジア文化財保存修復国際会議専門家会議5件） 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（論文2件 発表1件） 論文：「印刷と紙の保存性に関して - 1. 珪藻彩（コロナタイプ技術保存と印刷を考える）第6号 2007 「文化財修復に使用した合成樹脂の劣化状況調査報告、伝統的修復材料に関する調査研究 2007 発表：「紙の科学的分析」第一回東アジア紙文化財保存修復学術シンポジウム 新化館書店（中国・北京）2006.5.27-28 国際研修「紙の保存と修復」 在外日本古美術品保存修復協力事業 近代の文化遺産の保存修復に関する研究（発表2件） 発表：「鉄道遺産の利活用」第19回研究会「鉄道遺産の利活用」交通科学博物館 2006.10.26 「路面電車の運行と文化財の保存」第20回研究会「路面電車の運行と文化財の保存」東京文化財研究所 2007.3.10</p> <p>・自己点検評価 学術雑誌等への掲載論文数25件、学会、研究会等での発表件数23件であり、上記のとおりであった。 「定性的評価」「定量的評価」とも中期評価どおりまたは、中期評価を上回って実施されており、中期目標に向けての実施状況は「順調」であると判断する。</p> <p>（4）我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実証的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。</p>	
--	--	--	--	--

			<p>・実施状況 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 (論文10件、発表1件) 論文:「キトラ古墳のバイオフィルムから分離されたバクテリア・菌類に対するケトンCG相当品(抗菌剤)の効果」 「キトラ古墳における菌類等生物調査報告(3)」 「キトラ古墳採集室室内の環境について(2)」(以上、『保存科学』第46号2007.3) 「キトラ古墳出土遺物に関する科学的調査研究」『仏教芸術』290号、2007.1、 「キトラ古墳の発掘調査」『日本考古学』第23号2007.5、 「キトラ古墳の発掘調査」(日本考古学協会第72回) "Moisture Characteristic Curves of the Soil of Takamatsuzuka Tumulus" 「高松塚古墳における菌類等生物調査報告(平成18年)」 「高松塚古墳解体時のための観測システム」(以上、『保存科学』第46号2007.3) 「高松塚古墳の調査」『奈良文化財研究所紀要2007』2007.6 発表:「高松塚古墳石室解体時の空調方法の検討」 外部機関の要請に基づく文化財の保存修復に関する実践的研究</p> <p>・自己点検評価 学術雑誌等への掲載論文数10件、学会、研究会等での発表件数1件であり、上記のとおりであった。 「定性的評価」「定量的評価」とも中期計画どおりまたは、中期計画を上回って実施されており、中期目標に向けての実施状況は「満足」とであると判断する。</p>				
		学術雑誌等への掲載論文数	A	B	C	実績	定量的評価
			100件以上	100件未満 70件以上	70件未満	149件	A
		学会、研究会等での発表件数	A	B	C	実績	定量的評価
			80件以上	80件未満 56件以上	56件未満	112件	A

2. 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

評定

A

中期計画通りに履行し、中期目標に向かって順調に実績を上げている。

評価のポイント

中国、タイ、カンボジアなど、長期にわたり保存修復に関わる調査、保存処置ならびに技術移転などが行われ、また、各種の国際シンポジウムや各国に対する保存修復協力事業などを通して、保存修復のみならず、東洋美術の保存修復者の育成、それぞれの国々の研究者との交流が継続的になされ成果を上げていることは高く評価される。

また、文化庁・外務省による「文化遺産国際協力コンソーシアム」事業の受託は、世界における多様な文化の発展に貢献するものとして、今後、その成果を期待する。

中期目標	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価
		S	A	B	C	F		
<p>文化財の保存・修復に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通して、我が国の国際貢献に寄与する。</p> <p>(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通して保存・修復事業を</p>	<p>1. 国際協力に関する研究基盤の整備</p> <p>情報の収集・分析及びその提供を行うこと。</p> <p>国際協力のネットワークを構築すること。</p>	S	A	B	C	F	<p>(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通して保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活性化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。</p> <p>・実施状況</p> <p>・文化財保存施策の国際的研究 文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。 1. 文化財保存施策に関する情報の収集分析：欧州委員会 (EU)・欧州評議会 (Council of Europe) の文化財保存施策についての調査を実施し、情報を収集し、分析した。 2. 国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考えるラウンドテーブル形式の国際会議を1回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究会を1回、計2回開催した。</p> <p>・アジア諸国における文化遺産を形成する素材の劣化と保存に関する調査研究 カンボジアのアンコール遺跡群のタ・ネイ遺跡で、繁茂する生物群を調査し、蕨類8属9種、苔類2属3種、地衣類34属41種(シアバクテリア、緑藻を含む)を同定した。また新たに環着剤を開始</p>	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>アンコール遺跡群、スコータイ遺跡、敦煌莫高窟、バーミヤーンなど長期にわたる地道な取組みを評価する。</p> <p>その中で、アンコール遺跡群における石材表面の生物群の調査を科学博物館との共同で行ったことは、従前の環境調査や保存処置に加えて更に総合的な保存法を探ることとなり、高く評価される。</p> <p>併せて、ベトナムのミーソン遺跡での取組みのように現地スタッフの研修を図ることは我が国の国際協力の最も良い面</p>

<p>実施するために必要な研究基盤整備を行う。</p> <p>また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活性化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。</p> <p>(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。</p> <p>また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。</p>			<p>した。タイ・スコタイ遺跡のスリチュム寺院では、生物が繁茂しにくい条件を考察するための環境データ回収と、若手研究者の研修を行った。ベトナムのミーソン遺跡において環境データを回収するとともに若手研究者の研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンコールワット遺跡群西トップ寺院の調査 <p>西トップ寺院では引き続き西トップ寺院での調査を行った。8月には東テラス南北掘削トレンチの最終調査として北端に調査区を設定し、砂岩建築装飾などを検出した。12月の調査では東テラスの東端部にトレンチを設定し、セマ石の基部の構造物や、下層の石列を検出した。こうした成果については6月の国際調整委員会で発表するとともに、いくつかの国内の研究会で発表を行った。</p> ・龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究 <p>龍門石窟研究所保護センター楊剛亮研究員を招へいし、地理情報システムGISの技術を活用した文化遺産の保護研究方法についての研究・研修を行なわせた。また、西安文物保護修復センターと共催で、「石造文化財の表面処理に関する各種の問題」をテーマとする研究会を西安にて開催した。</p> <p><受託研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・陝西省唐代陵墓石彫像保護修復事業 1,684千円 ・龍門石窟保護修復プロジェクト 3,734千円 ・敦煌壁画の保護に関する共同研究 <p>敦煌壁画に関して、東京文化財研究所と敦煌研究院が共同で調査研究を行うもので、2006年4月から5年間の新たな合意書に基づき第5期として推進するものである。その内容は、壁画制作技法・制作材料に関する光学的方法及び分析的方法を用いた総合研究、放射性炭素年代測定法による主要窟の年代測定に関する研究、日中の若手研究者育成、第4期において修復作業を完了した研究対象窟第53窟についての継続的経路観察である。</p> ・西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 <p>バーミヤーン遺跡に関して、第6次及び第7次の二度のミッションにて現地調査を行うとともに、現地技術者の人材養成を行い、保存に関する国際会議にも出席した。また、資料集及び報告書を6冊発行した。さらに、イラクバグダード国立博物館等から専門家2名を日本に招へいし、研修を行った。</p> <p><受託研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ/バーミヤーン遺跡保存事業 8,608千円 ・タジキスタン共和国アジナ・テパム教寺院の保存修復事業 2,621千円 ・中国及び中央アジア各国におけるシルクロード広域の世界遺産登録街並調査の実態調査及び登録文化遺産または登録の可能性のある文化遺産の現状調査 1,771千円 ・[文化遺産国際協力コンソーシアム]運営委員会を3回開催し3つの分科会を開催した。会員専用コミュニティ・サイトを開設した。日本の実施した文化遺産国際協力プロジェクト一覧を冊子にまとめ公開した。フォーラムとシンポジウムを開催した。 41,740千円 ・自己点検評価 <p>国際協力に関する研究基盤の整備を図るため、上記のとおり調査研究及び受託研究を実施した。国際協力や国際協力の情報収集・分析・活用を図るとともに、東アジア、西アジア、東南アジアなどで文化財の保存・修復に関する国際協力のネットワークを構築し、協力事業の実施を通して我が国の国際貢献に寄与した。また、文化庁・外務省の要請による「文化遺産国際協力コンソーシアム」事業について受託し、文化遺産の国際協力に関する日本国内のネットワークの構築について積極的に支援した。</p> 	<p>が出ており、今後同様の活動を期待したい。</p> <p>莫高窟については、過去、壁画等の剥落などの調査、分析を行い、その原因を究明し、その成果の上で保存処理が実施されたが、こうして修復作業を完了した研究対象窟の継続的観察の実施は、更に多くの壁画などの保存・修復に役立つものでありその成果に期待する。</p> <p>文化庁・外務省による「文化遺産国際協力コンソーシアム」事業の受託は、世界における多様な文化の発展に貢献するものとして、今後、その成果を期待する。</p> <p>総じて、文化財の保存・修理について国際協力に関する研究基盤の整備を躊躇にすすめていると考えられるが、引き続き、リーダーシップを持って、ネットワーク構築を進め、アジア地区においては世界での日本の文化分野での存在感を示していくことを期待する。</p> <p>なお、無形文化遺産を保護する国際的協力体制を整えるための無形文化遺産条約が発効したことも踏まえて、今後の無形文化財に関する国際的な活動について期待したい。</p>
--	--	--	--	--

			<p>各プロジェクトの実施状況等については、「定性的評価」「定量的評価」とも中期指図書どおり、または中期計画を上回って履行できたことから、中期目標に向けての実施状況は「順調」と判断する。</p>	
--	--	--	---	--

<p>2. 保存修復に関する技術移転の推進</p> <p>諸外国への技術移転を積極的に進めること。</p> <p>アジア諸国における専門的な人材の育成のための支援事業等を行うこと。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p>(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。</p> <p>・実施状況</p> <p>・諸外国の文化財保存修復専門家養成</p> <p>文化遺産の保存修復を実施するためには、経験豊かな修復専門家の関与が必要不可欠である。しかし、紛争が長期継続した国々では、文化遺産を保存・修復する人材が決定的に不足しており、その養成が緊急課題となっている。そのため諸外国における専門家の研修を実施する際の教材として使用することを目的として、「土器の修復」をテーマにしたテキストおよびビデオDVDを作成した。</p> <p><受託研究></p> <p>[ベトナム]保存管理計画等作成のための行政機関に対する状況調査、必要となる保存修復機材の選定を行った。また、「タンロン遺跡の保存に関する日越合同専門家委員会」の立ち上げのための準備会合に専門家を派遣した。 1,244千円</p> <p>発掘された遺構の再調査実地研修、測量研修を実施するため、考古専門家を派遣され、9名のベトナム人専門家に対して研修が行われ、統一した測量基準による遺構測量図面の作成が実施された。 2,589千円</p> <p>[インドネシア]プランバナン遺跡を中心に、古都ジョグジャカルタ地域の文化遺産被害状況に関する調査を実施した。この調査により、プランバナン遺跡崩壊について、緊急的に必要な応急措置を提言した。 2,995千円</p> <p>[インドネシア]修復マスタープラン策定のための基本調査、地震被害解析のための構造調査、地震被害解析のための地盤調査、修復履歴調査、足場建設指導及び修復工事基本計画策定のための調査を、各専門家の派遣により実施した。 18,936千円</p> <p>シルクロード沿線の新疆、青海、寧夏、甘肅、陝西、河南の6省・自治区からの27名の文化財保護修復技術担当者トレーニングを行った。土遺跡保護専攻 15名(2カ月間)と陶磁器金属器修復専攻 12名(3ヶ月間)である。 8,078千円</p> <p>イラク国立博物館より2名の保存修復専門家を招聘し、研修を行った。東京と奈良で文化財保存活動の現状について視察を行い、イラク国立博物館の現状と研修成果についての報告会も行った。 5,864千円</p> <p>・JICA, ACCU等の研修事業の協力</p> <p>ACCU(ユネスコ文化センター文化遺産保護協力事務所)が実施した、アジア太平洋地域文化遺産保護に従事する、合計19名の研修者に対して、長期、短期合わせて3コースにわたる研修事業に協力し、実地研修、実習研修を行った。</p> <p>・自己点検評価</p> <p>諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を進めるため、上記のとおり専門家養成事業及び受託研究を実施するとともに必要な教材や教育手法の研究開発を実施した。</p> <p>特にインドネシア・ジャワ島中部地震により深刻な被害を受けたプランバナン遺跡崩壊に関する緊急支援について、文化庁・外務省の意向を受け受託研究を適切に実施するとともに、ベトナム「タンロン遺跡の保存に関する日越合同委員会」の設置についても、中心的な役割を担ったことと評価できる。</p>	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>諸外国の専門家の研修のためのテキスト及びDVDの作成を含め、諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を進めるための、専門家養成事業等を積極的に実施していることは評価できる。</p> <p>なお、今後は、無形文化財に関する企画についても期待したい。</p>
--	--------------------------	--	---

			<p>また、諸外国からの人材育成について積極的に支援事業を行っており、「定性的評価」「定量的評価」とも中期計画どおり、またはそれを上回って履行できたことから、中期目標に向けての実施状況は「順調」と判断する。</p>	
--	--	--	---	--

3. 調査研究成果の積極的な発信による社会への還元

評定

A

中期計画通りに履行し、中期目標に向かって順調に実績を上げている。

評価のポイント

従来、課題であった飛鳥資料館の入館者数が、キトラ古墳の白虎の展示の効果もあり、飛躍的に増加しており、展示は時宜を得た催しと評価される。できれば、飛鳥・藤原地区における研究成果に関して、藤原宮跡資料室での公開手法についての工夫がほしい。また、平城宮跡におけるボランティアの活動は高く評価されているが、国立博物館と統合したことから、宮跡自体を自然界における博物館の展示物といった捉え方をして、より一層の安定した保存環境に力を注ぎ、活用できる場を提供されたい。

中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価
		S	A	B	C	F		
<p>以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。</p> <p>(1)文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充</p>	<p>1. 情報基盤の整備充実</p> <p>ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。</p> <p>文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。</p>	S	A	B	C	F	<p>(1)文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。</p> <p>・実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実 「情報セキュリティポリシー」を策定し、セキュリティポリシーに沿った啓発種別を行なうとともに、不正アクセス防止装置・迷惑メール対策ファイアウォールを導入してセキュリティを強化した。また、それに関する情報収集、システム全体の日常的な運用、保守契約等の協議、メールアドレスの管理を行った。さらに、ネットワーク環境の整備のため、一部の機器を更新した。 文化財に関する専門的アーカイブの拡充 従来どおり文化財に関する文字・画像資料の収集、管理、公開、データベースの構築・運用を基本に、より充実した文化財に関するアーカイブの形成をすすめた。また、国宝「紅白梅図屏風」の高解像度画像、蛍光X線分析データ、関連文献データをリンクした閲覧用データを資料閲覧室にて公開した。「研究資料データベース検索システム」をハードソフトともに更新し、イントラネット、インターネット共に和雑誌と楽器的データベースを新たに公開した。 東京文化財研究所75年史編纂 	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>今後、ますますインターネットの活用が進む中(実績270万件)で、そのセキュリティの強化と資料のデジタル化が図られていることを評価する。</p> <p>特に、無形文化財の音声・画像・映像資料をデジタル化して、利用できるようにしているのは評価できる。</p> <p>また、東京文化財研究所七十五年史に向けた資料収集は、国立文化財機構の文化財研究所をPRするまたとなし、機会の一つと考えられるので、その成果に期待したい。</p>

<p>実を図る。</p> <p>また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。</p> <p>(2)文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。</p> <p>(3)黒田記念館、平城宮跡</p>			<p>平成19年度の刊行を目指して、東京文化財研究所七十五年史に関する資料収集を行い、沿革・調査研究篇については、各部・センターの担当者を中心として資料を収集し、原稿を作成した。事業・資料篇については、収集した資料をデジタルデータ化し、編集、原稿化するとともに、その一部を研究等に資するデジタル・コンテンツとして公開に向けて編集し、ホームページ上での公開に向けて加工を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無研文化財に関する音声・画像・映像資料のデジタル化 <p>2006年度までに受け入れ手続きが完了した資料の内、オープンテープ約800本のデジタル化に着手し、古曲を中心に268枚のCDを作成した。また、寺事と近世芸能を中心に、インデックス付与済みCD73枚を作成した。所蔵画像資料については、データベースの作成を行い、五代目菊五郎以外の明治大正期の歌舞伎絵がき・プロマイド1094点の所蔵一覧を作成し、公表した。無研文化財関連のDVD171枚を登録した。</p> ・国際資料室の整備 <p>資料の収集とデータベース化 1,070点(和漢書479点、洋書591点)の資料を収集しデータベース化した。また、データベースの検索専用の画面を作成し、国際資料室で公開した。さらに、分類項目について検討し、より現状を反映した利用しやすいものに改めることとした。 『国際資料室蔵書目録』の作成 平成19年3月に、今年度国際資料室で受け入れた1,070点の資料、所蔵する雑誌340種等を掲載した目録を発行した。</p> ・文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究、文化財情報電子化の研究に基づき、データベースの充実 <p>情報収集、データベース化：東南アジア調査関連のスライド2600点余りをデジタル化し、衛星画像など関連資料を収集した。また、平成13年から収集している世界各国の文化財保護に関する法令について、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。出版物のPDF化を実施した。 文化財情報の電子化について、文化財に固有の問題を含めて研究システム改良の対策材料を提示した。10月には世界情報システム学会大会で成果発表を行い、同月には遺跡GIS研究会を開催した。 文化財情報の電子化として、木簡、図書、全文、写真、遺跡、航空写真、軒瓦等のデータベースにおいて、各種文献や参考書目等の調査を行いながらデータの拡充を行った。写真の電子化も各種の大きさの原稿に対して継続して行った。</p> ・文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実 <p>遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等、歴史・考古学分野を中心とした図書・逐次刊行物の収集・整理並びに発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集・整理を行なった。 また、今年度より資料・図書の公開の一層の推進を図るため、所蔵図書データベースの継続的な公開に加え、国立情報学研究所の目録所在情報サービスに図書の登録を開始した。</p> ・自己点検評価 <p>ネットワークセキュリティの強化等の情報基盤整備・充実と文化財情報の計画的収集・整理・保管及び電子化の推進として、上記のとおり事業を実施した。情報基盤を整備するとともに各種資料のデジタル化・データベース化を推進できたことは評価できる。 各プロジェクトの実施状況等については、「定性的評価」「定量的評価」とも中期計画どおり、または中期計画を上回って履行できたことから、中期目標に向けての実施状況は「満足」と判断する。</p> 	
---	--	--	---	--

<p>資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。</p> <p>(4)文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。</p> <p>(5)奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生かした展示・公開事業を行う。</p>	<p>2. 調査研究成果の公開・提供</p> <p>公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。</p> <p>HPの充実を図り、HPアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保すること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p>(2)文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。</p> <p>・実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京文化財研究所年報」・「東京文化財研究所概要」・「東文研ニュース」(25号~28号)の刊行 ・「奈良文化財研究所概要」・「奈良文化財研究所概要」・「奈文研ニュース」(21号~24号)・「埋蔵文化財ニュース」(126号~129号)の刊行 ・「平成17年度版 日本美術年鑑」1冊・「美術研究」(389号、390号、391号)の刊行 ・「無形文化遺産研究報告」(第1号)・「無形民俗文化財研究協議会報告書」の刊行 ・「保存科学」46号の出版 ・第29回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書の刊行 ・研究報告書、研究論文集、図録等の刊行 平成18年度に、研究報告書・研究論文集26点、図録、カタログ等4点、史料等10点、パンフレット8点、DVD1点、合計39点を刊行した。 ・第30回文化財の保存・修復に関する国際研究集会 「第30回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会」は、「無形文化遺産の保護-国際的協力と日本の役割-」をテーマとして、2007年2月14日~16日に開催した。今回の研究集会では、関係する研究機関・保継関係者等の異なった立場の内外の参加者が、それぞれの直面している問題点や将来的な展望に関して発表し、情報の共有化を図るとともに、この分野における今後の国際的協力のあり方と日本の役割につき、研究的側面を中心として討議を実施した。 ・平成18年度美術部オープンレクチャー 研究成果を広く公表するべく毎年秋に開催している公開学術講座「美術部オープンレクチャー」を、本年度は「人とモノの力学」をテーマに掲げ、10月27日(金)と28日(土)の両日午後2時~5時(土)の両日午後2時~5時に所内・地階セミナールームにおいて行った。のべ239人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、211人から回答を得(回収率88%)、回答者の87%が満足感を得た。 ・公開講演会、現地説明会等の開催 研究所が行う調査研究を適時適宜に国民に公表するため、公開講演会を2回、飛鳥資料館特別講演会を3回、計5回の公開講演会等を開催した。また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計8回実施した。 参加延べ人数は、公開講演会等が718名、現地説明会等が11,155名に上り、開催回数、参加者数ともに従来の水準を維持し、臨場面に事業が実施できた。 ・ホームページの運用、ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保 	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>調査・研究成果を、刊行物で公表するほか、いろいろな形で公開・提供されていることは評価される。</p> <p>特に、オープンレクチャーや、ホームページの充実など、とかく専門家内だけで留まってしまう研究を、「社会化」し、「オープン化」するような試みは評価でき、今後とも充実いただきたい。</p> <p>毎年刊行している「保存科学」は、研究内容以外にも、実施例などの調査報告や博物館・美術館のアンケートなどが掲載され、行政関係者にも分かり易い内容となっている。また、埋蔵文化財センターニュースなどで行政面での技術的な情報提供、統計等の報告があることも評価できる。</p> <p>また、「保存科学」の報告をインターネットでダウンロードできることは、保存科学、保存修復の研究者、技術者のみならず興味のある他の専門家、一般市民も関心に応じて利用でき高く評価できる。</p> <p>ホームページアクセス数が特別に伸びたことは評価でき、今後はさらに意欲的な活動目標を法人として設定するなど工夫し、目標直にこだわらず引き続き努力</p>
--	---	--------------------------	---	---

		<p>広報活動、情報発信の一翼を担い、かつ文化財研究のデジタル・アーカイブとして機能した結果、ホームページアクセス件数は2,694,976件に達した。</p> <p>また、奈良文化財研究所においては、ホームページのアクセシビリティについて再検討を行い、音声ファイルを追加した。さらにキトラ情報専用サーバ、携帯サイトを追加し、情報発信に努めた。</p> <p>・自己点検評価</p> <p>文化財に関する調査・研究に基づく成果について、刊行物の刊行、講演会等の開催、ホームページの充実等を上記のとおり実施した。いずれも、中期目標・計画に沿って実施状況は「満足」と判断する。</p> <p>文化財に関する調査・研究に基づく成果について、刊行物の刊行、講演会、国際シンポジウム等の開催、ホームページの充実等を上記のとおり実施した。特に国際シンポジウムについては、2006年4月に発行した「無形文化遺産の保護に関する条約」を複製し、「無形文化遺産の保護 国際的協力と日本の役割」をテーマとし、今後の国際的な取組みについても一定の方向性を提示できたことは評価できる。また、ホームページアクセス件数についても昨年度実績を大幅に上回ったことから充実が図られた結果であると評価できる。各プロジェクトの実施状況等については、「定性的評価」、「定量的評価」とも中期計画どおり、または中期計画を上回って履行できたことから、中期目標に向けての実施状況は「満足」と判断する。</p>					<p>いただきたい。</p>
	<p>HPアクセス件数 (前期中期計画期間年度平均件数1,122,695件)</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>実績</p>	<p>定量的評価</p>	
		<p>100万件以上</p>	<p>100万件未満 70万件以上</p>	<p>70万件未満</p>	<p>2,694,976件</p>	<p>A</p>	
<p>3. 公開施設の運用</p> <p>黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示の充実を図ること。</p> <p>入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上を確保すること。</p> <p>文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティア</p>		<p>(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。</p> <p>(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、簡易ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。</p> <p>(5) 奈良県の「平城遷都1300年記念事業」に向け最新の調査・研究に基づく平城宮跡資料館の展示リニューアル、及び古代都城等に関する国際共同研究の成果の展示・公開について検討を始める。</p> <p>・実施状況</p> <p>・黒田記念館における作品の展示公開</p> <p>黒田清暉の作品を多数所蔵している当研究所は、黒田清暉の芸術を顕彰するために黒田記念館において作品を公開するとともに、地方文化の振興に資するために、昭和52年からの事業として「近代日本洋画の巨匠 黒田清暉」展を年1回地方において共催している。また、同じ目的から、当研究所の所蔵</p>				<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>公開施設の展示は、わかりやすく充実しており評価できる。</p> <p>黒田記念館、飛鳥資料館の入館者数が、前期中期計画年度平均入場者数の2倍に達したことは高く評価される。ただし、後者については、最も話題性のあるキトラ古墳壁画の白虎の展示に負うところが大きいと思われる、これを機にそれ以外の常設展、企画展などへの入場者数の増加に期待したい。</p>	

<p>アへの活動支援を行うこと。</p> <p>奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生かした展示・公開事業を行うこと。</p>			<p>作品を他機関に貸与し、展覧会の企画・運営に協力している。今年度、黒田記念館においては、総入館者数 20,975人（公開日数：延91日）であった。また、豊田市美術館にて上記展覧会を開催し、入場者数 16,598人であった。他機関への作品貸出は、5件14点であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡資料館における展示・公開（3（5）と一体で実施） 平城宮跡資料館では、通年の常設展のほか、速報展として「日中共同 唐長安城大明宮太液池の発掘調査」（2006.5.27～12.27）、「奈良の都を掘る一発掘成果展 平城2006ー」（2006.10～12.27）、「西大寺食堂院の井戸」（2006.11.20～）を実施した。また、展示に際して来館者のアンケート調査を実施した。 ・飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 春期特別展示「キトラ古墳と発掘された壁画たち」を実施した。夏の企画展では、春の壁画の展示にちなんで夏期企画展示「東アジアの十二支像」を行った。秋の特別展示では、当館で保管展示中の高松塚古墳出土海獣葡萄鏡に焦点を当て、この種の中型海獣葡萄鏡の同型鏡を借用展示するとともに、期間中に蛍光X線分析を行った。その成果は図録に掲載するとともに、飛鳥資料館研究図録第9冊として刊行した。冬の企画展として飛鳥地方の発掘速報展を行った。昨年度飛鳥地方で話題となったカズマヤマ古墳出土品などを展示し、最新の発掘成果を公開した。 ・藤原宮跡資料室における展示公開 常設展を通年実施し、一部近年の発掘調査で得られた木簡のレプリカを加え、内容を充実させた。展示活用のために、石神遺跡出土鋸のレプリカ製作及び飛鳥遺跡出土漆塗土師器の修復を行った。また、140次調査（石神遺跡）142・144次調査（藤原宮朝堂院東第四堂）146次調査（甘樫丘東簡遺跡）、145次調査（石神遺跡）の速報展示を行った。展示スペースについては、一部レイアウトの変更を行った。 ・平城宮跡等公開活用事業への協力・支援 特別史跡平城宮跡内に設置されている文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に関しては、研究所が積極的な協力を行うこととしており、宮跡利用申込みに対する連絡及び申込者との打合せ、各種行事や発掘調査等に係る連絡調整、宮跡内建物や工作物等の修繕に当たっての状況把握及び文化庁・業者との連絡調整や現場管理、住民等からの苦情対応、所轄消防署との連絡調整、放置車両・ホームレス対策のための警察署との打合せ等を実施した。 ・平城宮跡解籍ボランティア事業の運営 本年は平城宮跡を訪れた約9万8千人に案内・解籍を行った。平城宮跡は小・中学校の校外学習の場としても活用され、その説明は解籍ボランティアに依頼されることが多く、学校関係者等から高い評価を得ている。 この事業は、6年を超え定着してきているが更に充実させるため、解籍を受けた来訪者にアンケート調査をおこなった結果、92.5%が良かったと答えている。 解籍ボランティアの活動支援として、解籍のための専門研修（3日間）、「続日本紀」読書会（毎月1回）遺跡見学会（1回）等を実施し、解籍資料の配付をおこなうなど継続的に支援した。 ・各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、学習会の実施等への支援 各種ボランティアに対する学習会等を実施した。 「特定非営利活動法人なら・観光ボランティアガイドの会」から朱雀門、東院庭園でボランティア解説をしたいと要請があり、活動場所の提供をおこなった。 また、平成13年11月に設立された「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、 	<p>平城宮跡資料館については、奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせて、入館者の平城宮跡への理解及び発掘調査・研究への関心が深まるよう一層の展示の工夫を期待する。</p> <p>各種のボランティア組織に対して積極的な活動支援を行うとともに、解籍ボランティアの育成も行っており、その結果来訪者の満足度も高く、実質的な成果がでていると評価できる。</p> <p>今後は、ボランティアに対する感謝状や広報誌等での公表などを行うとともに、ボランティアを行っていることについての満足度を量ることも検討されたい。</p>
--	--	--	---	---

			<p>活動機会、場所、講師等の派遣等、積極的な追加支援をおこなった。具体的には、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、歴史文化講演会への講師派遣、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル、拓本づくり教室を行った。それらは新聞、テレビでも紹介され好評であった。</p> <p>・自己点検評価 各種の資料館において研究成果の公開施設としての役割から、展示を充実させ、調査・研究の成果内容を広く一般に理解を深めることとして、上記のとおり実施した。特に飛鳥資料館においては、特別展によるキトラ古墳から発掘された「玄武」の公開を行い、これによる入館者数は大幅な伸びをみせたことは評価できる。各プロジェクトの実施状況等については、「定性評価」「定量的評価」とも中期計画どおり、または中期計画を上回って履行できたことから、中期目標に向けての実施状況は「満足」と判断する。</p>				
	<p>黒田記念館入館者数 (前期中期計画期間年度平均入 場者数10,531人)</p>	A	B	C	実績	定量的評価	
		1万人以上	1万人未満 7千人以上	7千人以上	20,975人	A	
	<p>平城宮跡資料館入場者数 (前期中期計画期間年度平均入 場者数72,430人)</p>	A	B	C	実績	定量的評価	
		7万人以上	7万人未満 4万9千人以上	4万9千人未満	77,560人	A	
	<p>藤原宮跡資料室入館者数 (前期中期計画期間年度平均入 場者数4,486人)</p>	A	B	C	実績	定量的評価	
		4,200人以上	4,200人未満 2,900人以上	2,900人以上	4,457人	A	
	<p>飛鳥資料館入館者数 (前期中期計画期間年度平均入 場者数55,274人)</p>	A	B	C	実績	定量的評価	
		5万2千人以上	5万2千人未満 3万6千人以上	3万6千人未満	112,128人	A	

4. 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

評定

A

中期計画通りに履行し、中期目標に向かって順調に実績を上げていく。

評価のポイント

特に保存科学に関しては、文化庁委託の高松塚・キトラ古墳の壁画に関わる事業量の増加にも拘わらず、地方公共団体やその他への協力は、IPM（総合的有害生物管理）の普及も含め十分なされている。

また、高度な研究成果をもとに、我が国の文化財に関する調査研究のナショナルセンターとして、地方公共団体や博物館・美術館等で中核となる文化財担当者に対する研修や、連携大学院教育を積極的に実施している。

中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価
		S	A	B	C	F		
我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 (1) 地方公共団体や大学	1. 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築 文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。	各委員の協議により評定を決定する。					<p>(1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。</p> <p>埋蔵文化財保護行政に資する調査研究を行うとともに、地方公共団体等への協力・助言・専門的知識の提供等について管理・調整する。また、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を実施する。</p> <p>・実施状況</p> <p>・無研文化遺産に関する助言 無研文化遺産の保存・活用等に関して、以下のとおり、64件の助言を行った。 文部科学省（教育映画等審査に関して）に対する助言 12件 文化庁芸術文化課世帯文化振興室に対する助言（文化芸術による創造のまち支援事業に関して）17件 文化庁伝統文化課に対する助言（国際民俗芸能フェスティバルに関して）1件 岐阜県揖斐川町教育委員会に対する助言 1件 日本芸術文化振興会に対する助言（劇場賞選考、運営計画、文化デジタルライブラリー関連）9件 日本芸術文化振興基金に対する助言（助成事業に関して）3件</p>	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>文化財研究所の世界水準に達している調査・研究の成果を踏まえ、我が国の文化財に関するナショナルセンターとして、国・地方公共団体・各種団体等に対する専門的・技術的な協力・助言等が積極的になされている。特に、無研文化遺産の保存・活用に関しても、様々な助言を行っているのとは評価できる。</p>

<p>研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。</p> <p>(2)埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学会員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80パーセント以上の満足度が得られるようにする。</p> <p>また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。</p>			<p>(財)伝統文化活性化国民協会に対する助言(伝統文化データベース、ふるさと文化復興事業、伝統文化こども教室関連事業に関して) 9件 全国民俗芸能大会に関する助言 5件 全国青年大会郷土芸能の部運営委員会での助言 2件 園田学園近松研究所に対する助言 2件 韓国国立民俗博物館に対する助言 4件</p> <p>・文化財の修復及び整備に関する調査・助言 地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業を奨励・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行った。今年度は、高松家古巖壁画やキトラ古巖壁画から、旧手宮鉄首施設の機関車庫や日下野鉄製製造会社煉瓦窯などの近代文化遺産まで、多種多様な文化財に対して、以下のとおり計20件の指導助言を行った。</p> <p>財団法人日本航空協会評議員会 有限責任中間法人国宝修理装飾調整資格試験委員会 史跡京爆ドーム保存支援指導委員会 史跡京爆ドーム躯体レンガの保存修復に関する指導助言 重要文化財日下野鉄製製造会社煉瓦窯の保存修復に関する指導助言 重要文化財日手宮鉄首施設(小樽市)の保存修復に関する指導助言 御味車及び1号機関車(交通博物館)の搬出入方法に関する指導助言 所沢航空発祥記念館所蔵91式戦闘機機体の保存修復に関する指導助言 第五福竜丸エンジンの保存修復に関する指導助言 国宝高松家古巖壁画の保存修復に関する指導助言 特別史跡キトラ古巖壁画の保存修復に関する指導助言 重要文化財「京都府庁公文書」の調査/保存修復の指導助言 曼殊院所蔵竹虎図の保存修復に関する指導助言 熊澤齋堂仏(豊後高田市)の保存整備に関する指導助言 愛媛県立科学博物館所蔵グレイトフォールズ型機関車の保存修復に関する指導助言 大韓民国に所在する鉄道文化財の保存修復に関する指導助言 市川市指定有形文化財常夜灯の保存修復に関する指導助言 喜多見氷川神社(世田谷区)石鳥居の保存修復に関する指導助言 小倉城(北九州市)三の丸跡の遺構整備に関する指導助言 重要文化財0.5t及び3t スチームハンマーの修復後処置に関する指導助言</p> <p><受託研究> ・関西大学博物館所蔵重要文化財縄文鏡研土器の復元修理 1,177千円</p> <p>・地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 地方公共団体等が行っている史跡整備、建造物修理、発掘調査、出土文字資料調査等の各分野において専門委員会の委員になるなどして、専門的・技術的な助言を行っている。</p> <p>大内氏館跡(山口県山口市)にかかると大内氏館跡西北部に残る枯山水庭園跡の発掘調査・復原整備事業 奈良市指定春日大社桂昌殿にかかると礎石木材の具体的な補修方法についての技術的助言、桂昌殿の飾金具の在来仕様、小屋組の復原に関する専門的な助言</p>	
---	--	--	--	--

			<p>兵庫県太子町所在の城嶋寺仁王門、山王社に対する、専門的な調査援助、同町内建造物の保存のあり方に関する助言</p> <p>岐阜県恵那市、滋賀県大津市、奈良県大宇陀町、島根県高梁市等の伝説的保存地区審議会等での専門的助言</p> <p>茨城県石岡市常陸国宿跡、福島県須賀川市米町遺跡、埼玉県深谷市榑籬遺跡、岐阜県垂井町美濃国府跡、三重県四日市市久留保遺跡、愛知県松山市史跡久米官衙遺跡群、鳥取県倉吉市伯耆国宿跡発掘調査への援助・助言、岩手県盛岡市志波城跡、鳥取県鳥取市本願寺跡、福岡県大刀洗町下高橋官衙遺跡、佐賀県大和町肥前国府跡、宮崎県西都市日向国府・国分寺跡の整備事業への助言</p> <p>奈良市平城京跡、大阪府枚方市禁裏本町遺跡、兵庫県加古川市坂元遺跡、兵庫県氷上郡吹上町市乃遺跡、兵庫県赤穂郡上郡阿比野里四ツ日遺跡、青森市高間(1)遺跡、同新田(1)遺跡などから出土した資料にかかる解説・写真撮影などの援助・助言</p> <p>上記のとおり、地方公共団体等の委員就任件数180件、援助・助言実施件数(出張依頼を受けた件数)400件(委員会出席175、審議会出席20、指導50、調査47、講演21、その他87)の助言を行った。</p> <p>約40年ぶりに全面竣工することになった『発掘調査のてびき』の作成。</p> <p>静岡県伊豆郡清水町出土木簡、徳島県観音寺遺跡出土木簡の再読事業なども受託している。</p> <p><受託研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査作業マニュアル作成のための調査・検寸業務 4,563千円 ・伊豆郡清水町出土木簡再読・調査研究業務 197千円 ・徳島市観音寺遺跡(阿波国府推定地)出土木簡の総合的研究 693千円 <p>・地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言</p> <p>平城京周辺の重点地区で、主として住宅建設に伴う12件の事前調査を実施した。発掘の総面積は184.2㎡、調査期間は延べ97日である。このうち、409次調査西大寺薬師金堂で凝灰岩切石を壺地業とした地耐工法がみつき、法華寺町でおこなった412次調査では二条寺間路北側溝からガラス小玉鏡型や羽口を検出するなど、多くの成果をえた。</p> <p>・自己点検評価</p> <p>地方公共団体等に対する文化財に関する専門的・技術的な協力・助言を上記のとおり実施した。各プロジェクトの実施状況等については、「定性的評価」「定量的評価」とも中期計画どおり、または中期計画を上回って履行できたことから、中期目標に向けての実施状況は「順調」と判断する。</p>	
<p>2.中核的文化財担当者の研修・若手研究者の育成</p> <p>埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、中核となる文化財担当者に、各種の研修を実施するとともに、参加者等に対するアンケート調査で80パーセント以上</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>		<p>(2)埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修、保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。</p> <p>また、東京芸術大学、京都大学、奈良女子大学との連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。</p> <p>・実施状況</p> <p>・埋蔵文化財担当者研修</p> <p>遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵</p>	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>文化財に関して蓄積された高度な研究の成果を、満足度の高い埋蔵文化財担当者研修や学芸員研修、諸大学との間の連携大学院教育に活用し、研究のための研究ではなく、地方公共団体等で中核となる文化財担当者や若手研究者の育成に寄</p>

の満足度が得られるようにすること。 連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与すること。	文化財担当者を対象として、一般研修1課程、専門研修12課程、計13課程の研修を実施し、延べ182名が受講した。 研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。					与していることは、ナショナルセンターの役割を十分に果たしていることとして高く評価できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館・美術館等の保存担当芸員研修 研修は、2週間開催し、参加者は30名であった。総論、文化財材質調査、温湿度管理など、保存環境や生物対策に関する講義と実習、また紙や油絵の修復についての講義でプログラムを構成した。参加者全員が全てのプログラムに出席し、保存担当芸員研修修了証書が授与された。また、これまでの研修受講生を対象に、最新の保存科学に関する研究成果・知見を講義する「フォローアップ研修」を実施した。 ・連携大学院教育 東京芸術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学） システム保存学教室は保存環境学講座と修復材料学講座の二講座から成っていて、各講座3名ずつ計6名の研究所員が連携教員として文化財保存学分野の大学院生の研究教育指導に当たった。 ・京都大学との連携大学院教育 大学院人間・環境学研究科において6名の客員教授・助教受で担当。博士課程で講義を実施した。 ・奈良女子大学との連携大学院教育 大学院人間文化研究科において、3名の客員教授・助教受で担当。博士課程で講義を実施した。 ・自己点検評価 埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに地方公共団体等で中核となる文化財担当者等への研修を上記のとおり実施した。「埋蔵文化財担当者研修」「博物館美術館等の保存担当者研修」については、受講者の満足度は100%であり、充実した研修であったと評価できる。また、連携大学院教育にも積極的に参画し、研究対象の新しい情報により、若手研究者の育成に寄与したことも評価できる。各プロジェクトの実施状況等については、「定性的評価」「定量的評価」とも中期計画どおり、または中期計画を上回って履行できたことから、中期目標に向けての実施状況は「順調」と判断する。 					
	埋蔵文化財研修満足度%	A	B	C	実績	定量的評価
		80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	100%	A
保存担当芸員研修満足度%	A	B	C	実績	定量的評価	
	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	100%	A	

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

評定

A

中期計画を上回って履行し、中期目標を上回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

定量的指数である一般管理費及び業務費の効率化、省エネルギー化は十二分に達成されている。

また、国立博物館との統合を見据え、国際協力に関する業務における拠点機能の集約など業務の効率化を図っていることは評価できる。

中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価			
		S	A	B	C	F					
1 事務 事業 組織等の見直し、外部委託の推進等により、経費の合理化を図ること。また、財源の多様化を図るとともに、運営費交付金を充当して行う業務については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、下記に掲げる業務の効率化を進め、特殊業務経費を除き、5年間で一般管理費は1	1. 経費の合理化、行政コストの効率化 特殊業務経費を除き、5年間で一般管理費は15パーセント以上、業務経費は5パーセント以上の削減を図ること。 両文化財研究所における共通業務の見直し及び一般管理部門の効率化を図ること。	各委員の協議により評定を決定する。					1. 経費の合理化、行政コストの効率化				
		一般管理費削減率(対前年度比)					A	B	C	実績	定量的評価
							3%以上	3%未満 2%以上	2%未満	4.01%	A
		業務経費削減率(対前年度比)					A	B	C	実績	定量的評価
					1%以上	1%未満 0.7%以上	0.7%未満	1.19%	A		

<p>5パーセント以上、業務経費は5パーセント以上の削減を図る。</p> <p>(1) 両文化財研究所における共通業務の見直し及び事務のOA化、ITの活用、外部委託の推進等による一般管理部門の効率化</p> <p>(2) 効果的な人員配置、外部人材の活用、業務の外部委託の推進等、業務の見直しによる研究・事業部門の効率化</p> <p>(3) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進による経費節減</p> <p>(4) セミナー室等の積極的な活用、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営等、施設の有効利用の推進</p> <p>2「行政改革の重要方針」(</p>	<p>効果的な人員配置等、業務の見直しによる研究・事業部門の効率化を図ること。</p> <p>省エネルギー等による経費節減を図ること。</p> <p>施設の有効利用の推進を図ること。</p>		<p>・実施状況</p> <p>(1) 共通業務の効率化と経費の節減に資するため、東京・奈良双方の担当者が集まり「事務担当部長連絡会」や「事務担当者連絡会」において検討を進めるとともに、監事監査に基づく業務の見直しを行った。また、随意契約の限度額基準の見直し・検討を行い、可能なものから競争契約に移行することとした。さらに、国立博物館との統合を踏まえた、両研究所の業務の見直しや人事・管理事務の検討、システム等の洗い出しを行い、課題点を整理した。</p> <p>(2) 国際協力に関する業務において、東文研の「文化遺産国際協力センター」に拠点機能を集約し、奈文研企画調整部の国際調査研究室の人員を同センターに籍務させ、アフガニスタン・イラク等の保存修復協力事業を一体的に実施した。</p> <p>また、奈文研においては、平城宮跡発掘調査部と飛鳥・藤原宮跡発掘調査部を統合し、都城発掘調査部として再編成し、柔軟な人員配置等を可能にするるとともに、重点事項・緊急事態へも対応出来るようにした。</p> <p>(3) 省エネルギー、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進を図るため、日常の節電節水等を周知徹底し、夏季におけるノーネクタイ等の励行、夏季及び冬季の冷暖房の省エネルギー等を引き続き行った。また、コピー用紙は再生紙の使用、古紙の回収、所内LANの活用による回覧文書のペーパーレス化の推進を図った。</p> <p>なお、省エネルギーに係る光熱水量の節減について、昨年度と比較して電気は1,855千円(2.5%)、水道料は654千円(5.2%)、ガス料は105千円(0.8%)の節減を図った。</p> <table border="1" data-bbox="1003 954 1621 1137"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料</td> <td>73,274</td> <td>71,419</td> <td>1,855</td> </tr> <tr> <td>水道料</td> <td>12,580</td> <td>11,926</td> <td>654</td> </tr> <tr> <td>ガス料</td> <td>13,431</td> <td>13,326</td> <td>105</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 施設使用貸付料率を見直し、セミナー室や講堂等を外部団体等に貸付を行い、457千円の有料化を図った。</p> <p>・自己点検評価</p> <p>平成18年度運営費交付金の内、物件費の対前年度比約6.95%の減少という要因がある状況下で、省工</p>	区分	17年度	18年度	差額	電気料	73,274	71,419	1,855	水道料	12,580	11,926	654	ガス料	13,431	13,326	105	<p>評価A</p> <p>コメント</p> <p>運営費交付金を充当して行う業務の効率化状況のとおり、一般管理費及び業務費の効率化は概ね達成されており評価できる。</p> <p>特に、前年度より運営交付金約2.4%減少した状態で、業務経費削減率1.19%に対して一般管理費の削減率が4.01%であることは、事業推進状況としては前向きな成果として評価できる。今後ともこの状態を継続されることを期待する。</p> <p>国立博物館との統合を見据えた業務の見直しや、国際協力に関する業務における拠点機能の集約、調査部の再編成、随意契約の見直しや一般競争入札への移行など業務の効率化を図っている。</p> <p>省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進による経費節減のための努力が行われ、前年度と比較して光熱水量の節減が図られた。なお、古紙の回収に伴う情報漏洩には十分注意する必要がある。</p> <p>施設使用貸付料率の見直しを行い、施設の有効利用を積極的に推進したことは評価できる。</p> <p>内閣府の整備・運用についてはレ</p>
区分	17年度	18年度	差額																	
電気料	73,274	71,419	1,855																	
水道料	12,580	11,926	654																	
ガス料	13,431	13,326	105																	

<p>平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、退職手当、福利厚生費(法定福利費及び法定外福利費)、及び今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分を除き、平成17年度と比して、5年間で5パーセント以上の削減を図る。</p> <p>また、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。</p>			<p>ネルギーの推進による光熱水量の節減、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進により、一般管理費4.01%、業務経費1.19%の削減率を達成することができた。</p> <p>この達成の要因として、監事監査に基づく業務の見直しを行うことによる競争契約の増加や複数年契約がある。また、国立博物館との統合を見据え、国際協力に関する業務における拠点機能の集約など業務の効率化を図っている。</p>				<p>ルや手続が内部規程やマニュアルに明示され、法人内のすべての者がそれぞれの立場で理解しており、かつ、文書処理・記録等も適切になされ、ダブルチェックなど相互牽制、承認体制を通じて不注意やミスの発生を減少させるなどの運用がなされている。また、科学研究費補助金の執行状況等に対する監査も含め適切になされている。</p>												
<p>3 法人の自己点検評価のあり方について検討し、外部有識者による評価を含めた適切な自己点検評価を実施するとともに、評価結果を法人運営の改善に反映させる。</p>	<p>2 人件費の削減、給与体系の見直し</p> <p>平成17年度と比して、5年間で5パーセント以上の削減を図ること。</p> <p>また、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組むこと。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p>2. 人件費の削減、給与体系の見直し</p> <table border="1" data-bbox="940 686 1816 845"> <thead> <tr> <th>人件費削減率</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>実績</th> <th>定量的評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>1%以上</td> <td>1%未満 0.7%以上</td> <td>0.7%未満</td> <td>3.20%</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table> <p>・実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 「行政改革の重要方針(平成17年12月24日閣議決定)」を踏まえ、中期指画中の人件費A分類の5%削減基準額を平成17年度予算ベースから決算ベースによる見直しを行い、平成20年度から反映させることとした。 人事院勧告に準拠した法人の給与体系の見直しを行った。 <p>・自己点検評価</p> <p>平成18年度運営費交付金の内、人件費(退職手当、福利厚生費(法定福利費及び法定外福利費)を除く、いわゆる人件費A分類)の前年度比約2.53%の減少という要因がある状況下で、職員の定年退職による自然減などにより4.16%、人件費総額では3.20%の削減となり、人件費の効率化は計画通り達成できている。</p>				人件費削減率	A	B	C	実績	定量的評価		1%以上	1%未満 0.7%以上	0.7%未満	3.20%	A	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>人件費の削減は困難もある中で、効率化が十二分に達成されており評価できる。</p> <p>なお、人件費削減により調査・研究の停滞等がないよう人材育成にも注力する必要がある。</p>
人件費削減率	A	B	C	実績	定量的評価														
	1%以上	1%未満 0.7%以上	0.7%未満	3.20%	A														

<p>3 法人の自己点検評価のあり方についての検討</p> <p>適切な自己点検評価を実施するとともに、評価結果を法人運営の改善に反映させること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p>3.法人の自己点検評価のあり方についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施状況 <p>・昨年度の評価を、法人運営に反映させるとともに、評価手続きのあり方についての反省点を踏まえ、効果的かつ効果的な自己点検評価を実施するため、自己点検の評価方法及び様式等の一部を変更するとともに、自己点検評価外部評価委員のヒアリングの方法等についても見直しを行い、平成18年度の自己点検評価を行うこととした。</p> ・自己点検評価 <p>上記のとおり自己点検評価の評価方法、評価書の様式の整備、外部評価委員のヒアリングの方法等について見直しを行ったうえで、評価を実施しており、その評価結果を法人運営の改善に反映させている。川崎岡と判断する。</p> 	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>個々のテーマについてそれぞれ評価する17年度までの方法に対して、18年度からの観点別の評価方法は、ある程度幅広い見解に立って判断できる分、広がりのある評価を可能にしており、評価できる。</p> <p>しかし、各部門間の関係や力点の置かれ方など、把握できないところがあるため、引き続き工夫いただきたい。</p>
---	--------------------------	--	---

財務・人事

評定
A

中期計画通りに履行し、中期目標に向かって順調に実績を上げている。

評価のポイント

業務の一元化や、内部組織の統合などにより、職員の適正配置や人件費の抑制が図られていること、また、任期付研究員制度の導入や人事交流等が図られていることは評価できる。

なお、受託事業の増加や事業の予想外の事態などに対応するために必要であれば、弾力的な体制整備を期待したい。

中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価																																																												
		S	A	B	C	F																																																														
<p>予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画</p> <p>収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。</p> <p>また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。</p> <p>（1） 予算（中期計画の予算）別紙のとおり</p> <p>（2） 収支計画</p>	<p>1. 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画（中期計画）</p> <p>収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。</p> <p>また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。</p>	S	A	B	C	F	<p>1. 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画</p> <p>決算報告書の区分による予算の執行状況 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(収入)</th> <th>予算額</th> <th>決算額</th> <th>差引増減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運営費交付金</td> <td>2,984,788</td> <td>2,984,788</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>展示事業等収入</td> <td>41,749</td> <td>62,867</td> <td>-21,118</td> </tr> <tr> <td>受託収入</td> <td>26,000</td> <td>626,658</td> <td>-600,658</td> </tr> <tr> <td>附帯収入</td> <td>0</td> <td>10,401</td> <td>-10,401</td> </tr> <tr> <td>その他寄付金等</td> <td>0</td> <td>8,011</td> <td>-8,011</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,052,537</td> <td>3,692,725</td> <td>-640,188</td> </tr> <tr> <th>(支出)</th> <th>予算額</th> <th>決算額</th> <th>差引増減額</th> </tr> <tr> <td>運営事業費</td> <td>3,026,537</td> <td>3,024,394</td> <td>2,143</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>1,319,666</td> <td>1,301,642</td> <td>18,024</td> </tr> <tr> <td>調査研究事業費</td> <td>583,428</td> <td>622,692</td> <td>-39,264</td> </tr> <tr> <td>展示出版事業費</td> <td>164,868</td> <td>140,391</td> <td>24,477</td> </tr> <tr> <td>情報公開事業費</td> <td>161,833</td> <td>186,768</td> <td>-24,935</td> </tr> <tr> <td>研修事業費</td> <td>22,706</td> <td>23,878</td> <td>-1,172</td> </tr> <tr> <td>国際研究協力事業費</td> <td>317,173</td> <td>285,974</td> <td>31,199</td> </tr> </tbody> </table>	(収入)	予算額	決算額	差引増減額	運営費交付金	2,984,788	2,984,788	0	展示事業等収入	41,749	62,867	-21,118	受託収入	26,000	626,658	-600,658	附帯収入	0	10,401	-10,401	その他寄付金等	0	8,011	-8,011	計	3,052,537	3,692,725	-640,188	(支出)	予算額	決算額	差引増減額	運営事業費	3,026,537	3,024,394	2,143	人件費	1,319,666	1,301,642	18,024	調査研究事業費	583,428	622,692	-39,264	展示出版事業費	164,868	140,391	24,477	情報公開事業費	161,833	186,768	-24,935	研修事業費	22,706	23,878	-1,172	国際研究協力事業費	317,173	285,974	31,199	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p> <p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>制度上当初から見込めない受託関係及び施設整備費の乖離を除けば、概ね適切な予算による運営が行われたと判断できる。</p> <p>外部資金も大きく伸び、特に、受託事業費が予算に対して20倍に達しており、これを押し上げたと思われる特別の事業である高松塚、キトラ古墳の壁画に関わる費用が約半額を占めており、弾力的な対応がなされているのは評価できる。</p>
(収入)	予算額	決算額	差引増減額																																																																	
運営費交付金	2,984,788	2,984,788	0																																																																	
展示事業等収入	41,749	62,867	-21,118																																																																	
受託収入	26,000	626,658	-600,658																																																																	
附帯収入	0	10,401	-10,401																																																																	
その他寄付金等	0	8,011	-8,011																																																																	
計	3,052,537	3,692,725	-640,188																																																																	
(支出)	予算額	決算額	差引増減額																																																																	
運営事業費	3,026,537	3,024,394	2,143																																																																	
人件費	1,319,666	1,301,642	18,024																																																																	
調査研究事業費	583,428	622,692	-39,264																																																																	
展示出版事業費	164,868	140,391	24,477																																																																	
情報公開事業費	161,833	186,768	-24,935																																																																	
研修事業費	22,706	23,878	-1,172																																																																	
国際研究協力事業費	317,173	285,974	31,199																																																																	

別紙のとおり (3) 資金計画 別紙のとおり			<table border="1"> <tr> <td>管理費</td> <td>456,863</td> <td>463,049</td> <td>-6,186</td> </tr> <tr> <td>施設整備費</td> <td>0</td> <td>516,005</td> <td>-516,005</td> </tr> <tr> <td>受託事業費</td> <td>26,000</td> <td>589,897</td> <td>-563,897</td> </tr> <tr> <td>附帯事業費</td> <td>0</td> <td>5,631</td> <td>-5,631</td> </tr> <tr> <td>その他寄付金等</td> <td>0</td> <td>8,004</td> <td>-8,004</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,052,537</td> <td>4,143,931</td> <td>-1,091,394</td> </tr> </table> <p>決算額における収入(3,692百万円)より支出(4,143百万円)が上回っている状況については、支出計上している施設整備費(516百万円)は、還付消費税(13年度還付)を財源としているが、還付金消費税は会計処理上、収入決算に計上しないため、実質上は欠損にはなっていない。</p> <p>・自己点検評価</p> <p>決算額の収入は予算額と比較して640百万円の増加であった。その内訳は展示事業等収入21百万円、受託収入600百万円(受託件数39件)、附帯収入10百万円、その他寄付金等8百万円である。増加の主な理由は、当初の受入見込みになかった受託発掘調査及び受託調査研究の契約による受託収入の増加である。</p> <p>決算額の支出は予算額と比較して1,091百万円の増加であった。その内訳は受託事業費563百万円、施設整備費516百万円、運営事業費2百万円、附帯事業費5百万円、その他寄付金等8百万円である。増加の主な理由は、受託収入の増加に伴う受託事業費の増加及び平成13年度における還付消費税を財源とした施設整備費の増加である。</p> <p>運営費交付金の収益化に関する状況</p> <p>(運営費交付金債務) (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>交付年度</th> <th>期首残高</th> <th>当期交付額</th> <th>当期返済額</th> <th>期末残高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成17年度</td> <td>0</td> <td>3,046,016</td> <td>3,046,016</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>平成18年度</td> <td>0</td> <td>2,984,788</td> <td>2,976,019</td> <td>8,769</td> </tr> </tbody> </table>			管理費	456,863	463,049	-6,186	施設整備費	0	516,005	-516,005	受託事業費	26,000	589,897	-563,897	附帯事業費	0	5,631	-5,631	その他寄付金等	0	8,004	-8,004	計	3,052,537	4,143,931	-1,091,394	交付年度	期首残高	当期交付額	当期返済額	期末残高	平成17年度	0	3,046,016	3,046,016	0	平成18年度	0	2,984,788	2,976,019	8,769
	管理費	456,863	463,049	-6,186																																								
施設整備費	0	516,005	-516,005																																									
受託事業費	26,000	589,897	-563,897																																									
附帯事業費	0	5,631	-5,631																																									
その他寄付金等	0	8,004	-8,004																																									
計	3,052,537	4,143,931	-1,091,394																																									
交付年度	期首残高	当期交付額	当期返済額	期末残高																																								
平成17年度	0	3,046,016	3,046,016	0																																								
平成18年度	0	2,984,788	2,976,019	8,769																																								

			(運営費交付金収益) (単位:千円)					
			業務区分	成果進捗	期間進捗	費用進捗	80条3項	計
			平成17年度	1,263,623	1,670,769	2,180	306	2,936,878
			平成18年度	1,211,832	1,665,472	0	0	2,877,304
			<p>・自己点検評価</p> <p>自己収入のうち、展示事業等収入が年度計画予算より21百万円増加している。増加の主な理由は、飛鳥資料館における春季特別展「キトラ古墳と発掘された壁画たち」開催による入館者数大幅増による入券収入の増加である。</p> <p>運営費交付金収益の計上基準について、当年度は期間進捗型基準と成果進捗型基準を採用している。なお、期末残高に計上されている運営費交付金債務8百万円を除き、運営費交付金は収益化されている。</p> <p>外部資金等の導入状況</p> <p>科学研究費補助金</p> <p style="padding-left: 20px;">直接経費 141,500千円 (間接経費 24,240千円)</p> <p style="padding-left: 20px;">その他助成金 19,150千円</p> <p>自己収入の増加状況 【()内数字は年度計画予算】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示事業等収入 21,118千円 (41,749千円) ・受託収入 600,658千円 (26,000千円) ・附帯収入 10,401千円 (- 千円) <p style="text-align: right;">運営費交付金を充当して行う業務の効率化状況 (単位:千円)</p>					
			区分	事業計	人件費(退職手当は除く)		物件費	
					A分類	全人件費	一般管理費	業務費
			見込額(a)	2,921,136	1,112,951	1,239,115	442,368	1,239,652
			支出額(b)	2,848,880	1,066,604	1,199,407	424,620	1,224,852
			差額(c)	72,256	46,347	39,708	17,748	14,800
			効率化率(c/a)	2.47%	4.16%	3.20%	4.01%	1.19%

			還付消費税を財源とする流動資産の使用状況 (単位:千円)		
			期首残高	当期使用額	期末残高
			516,064	516,064	0
<p>短期借入金の限度額 短期借入金の限度額は、6億円</p> <p>短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。</p> <p>重要な財産の処分等に関する計画 奈良文化財研究所本館改築計画の実施に伴い取り壊し予定。</p> <p>剰余金の使途 決算において、剰余金が発生した場合は、調査・研究、国際協力、情報公開及び展示出版の各事業の充実・向上に充てるとともに、これらに必要な施設・設備の整備に充てる。</p>			<p>・短期借入金の借入はない。</p> <p>・重要な財産の処分はない。</p> <p>・剰余金は発生していない。</p>		

<p>その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>1 人事計画に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <p>職員の適正な配置と計画的な人事交流を推進する。また、効率的かつ効果的な調査研究を行うため、任期付き研究員制度の導入など、非公務員のメリットを活かした制度を活用する。</p> <p>職務効率の維持・増進</p> <p>ア 福利厚生充実</p> <p>イ 職員の能力開発等の推進</p> <p>(2)人員に係る指標</p> <p>常勤職員については、その人件費総額の抑制を図る。</p> <p>(参考1)</p> <p>中期目標期間中の人件費総額見込み</p> <p>5、439百万円</p> <p>但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超勤手当及び休職者給与に相当する範囲の費用である。</p>	<p>2.人事計画に関する計画</p> <p>(中期計画 1)</p> <p>職員の適正な配置と計画的な人事交流を推進すること。また、効率的かつ効果的な調査研究を行うため、任期付き研究員制度の導入など、非公務員のメリットを活かした制度を活用すること。</p> <p>職務効率の維持・増進を図ること。</p> <p>常勤職員については、その人件費総額の抑制を図ること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p>2.人事計画に関する計画</p> <p>・国際協力に関する業務において、東文研の「文化遺産国際協力センター」に拠点機能を集約し、奈文研企画調整部の国際調査研究室の人員を同センターに兼務させ、アフガニスタン・イラク等の保存修復協力事業を一体的に実施した。</p> <p>・奈文研においては、平城宮跡発掘調査部と飛鳥・藤原宮跡発掘調査部を統合し、都城発掘調査部として再編成し、柔軟な人員配置等を可能にするとともに、重点事項・緊急事態へも対応出来るようにした。</p> <p>・「研究者の流動性向上に関する基本的指針(意見)」(平成13年12月25日(総合科学技術会議)に基づき、「研究所における任期付き任用制及び公募制による研究職員の採用に関する計画」を策定し、若手育成型、プロジェクト対応型による特別研究員制度を導入した。</p> <p>・人事交流については、国や国立大学法人等と積極的に交流を進め、転入10名・転出9名の人事異動を行った。</p> <p>・転入</p> <p>(事務系職員)</p> <p>課長級 3名(日本芸術文化振興会、和歌山大学、神戸大学より)</p> <p>課長補佐級 2名(京都大学より)</p> <p>係長級 2名(千葉大学、滋賀医科大学より)</p> <p>係員級 2名(東京大学、京都大学より)</p> <p>(研究職員)</p> <p>主任級 1名(文化庁へ)</p> <p>・転出</p> <p>(事務系職員)</p> <p>課長級 2名(徳島大学、大学入試センターへ)</p> <p>係長級 3名(千葉大学、京都大学へ)</p> <p>主任級 2名(大阪大学へ)</p> <p>係員級 1名(東京大学へ)</p> <p>(研究職員)</p> <p>研究員級 1名(文化庁へ)</p>	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>国際協力に関する業務の一元化や、平城宮跡発掘調査部と飛鳥・藤原宮跡発掘調査部の統合などにより、職員の適正配置や人件費の抑制が図られていることは評価できる。また、任期付き研究員制度の導入や人事交流等が図られていることは評価できる。</p>
--	---	--------------------------	---	--

<p>(参考2)</p> <p>期初の常勤職員数 126人</p> <p>期末の常勤職員の見込み 126人</p> <p>2 下記を含めた施設・設備の整備を計画的に推進する。 奈良文化財研究所本館改築</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生については、健康診断・人間ドック・産業医による健康相談及び講演の実施、常備薬の購入映画鑑賞等を実施した。 ・職員の能力開発については、情報セキュリティに関する研修会の実施、その他国等が行う各種の研修に参加した。 ・人件費の抑制については、3.2%減を達成し、その抑制を図った。 <p>・奈良文化財研究所本庁舎改築に向けて概算要求を行った。また、大型設備について1件概算要求が認められた。</p> <p>また、奈良文化財研究所都城発掘調査部第二収蔵庫管理工事が竣工した。</p> <p>・自己点検評価</p> <p>予算、収支計画及び資金計画については、外部資金等を積極的に導入し、また、効率化を進め中期目標計画に沿って実施され、評価と判断した。</p> <p>人事計画及び施設・設備の整備計画についても中期目標計画に沿って実施され、評価と判断した。</p>	
--	--	--	---	--